大学の機能強化のための戦略的取り組み
「グローバル人材育成のためのカリキュラム開発と教員養成
ーグローバル化に対応した学校教育の変革を目指してー」

附属学校園におけるグローバル人材育成のカリキュラム開発

平成 28（2016）年度報告書

平成２９年７月

京都教育大学

附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会

目　　次

は　じ　め　に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅰ．　理　論　編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

１．平成 28（2016）年度の年間日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

２．幼稚園から高校までのグローバル人材育成のカリキュラム素案 ・・・・・　3

３．カリキュラムの基本的な考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

４．グローバル人材育成プロジェクト平成 28（2016）年度の振り返り・・・・１５

4-2. 資料：2016 年度授業開発一覧

５．平成 29（2017）年度のカリキュラム開発に向けて・・・・・・・・・・・・２４

６．平成 28 年度末の附属学校教員調査への結果から・・・・・・・・・・・・・２７

6-2. 資料：調査票

Ⅱ．　教育実践編（平成 28 年度の附属学校園での公開授業）・・・・・・・・・　３５

※ 平成 28（2016）年度の授業案とフィードバック・コメントは、本取り組みのホームページを参照。

Ⅲ．　資　料　編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

資料１：附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会細則

資料２：指導案、フィードバック・コメントの Proself へのアップ状況（平成 28 年度）

資料 3：附属学校園宛の参加教員募集依頼の文書（2017.5.10 発信）：
「グローバル・スタディーズ」の授業開発への参加教員の募集

お　わ　り　に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４４

は じ め に

本プログラムは，平成 26 年度から 4 年間のプロジェクト「グローバル人材育成プログラムの開発－幼稚園から大学までの系統的なカリキュラムの策定を目指して－」としてスタートした。平成 28 年度からは，第 3 期中期計画・目標期間における大学の機能強化のための戦略的取り組みの一つとして新たに位置づけ，「グローバル人材育成のためのカリキュラム開発と教員養成－グローバル化に対応した学校教育の変革を目指して－」として，①学部における「グローカル教員養成プログラム」の実施と発展的展開，②幼稚園から高等学校における発達段階別学習目標に基づいた実践授業とカリキュラム化, の 2 つの柱に分け，①は主として教務委員会が中心になり，②を研究推進室のもと附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会が所掌して進めている。さらにグローバル人材育成推進会議が①②それぞれの進捗状況を把握しながら両者を有機的に結び付け発展させるべく役割を担うこととしている。

本報告書は平成 28 年度における②の取り組みについてまとめたものである。平成 27 年度末には，これまでの附属学校園における授業実践研究を踏まえて，系統的な発達段階別学習目標の具体的枠組みとして「出会う」「広がる」「つながる」×「重ねる」を提示したが，平成 28 年度はこの枠組みに従い，附属学校園での授業実践を行いながらその分析と蓄積を進めてきた。平成 29 年 3 月に行われた附属学校園合同発表会ではその成果を報告し，平成 28 年度行われた公開授業がおおよそこの発達段階に応じたステップの枠組みに当てはまることを示した。

グローバル人材育成カリキュラムを考えるにはそもそもグローバルな社会，グローバルな人材とはいかなるものかということをイメージする必要がある。グローバルな人間は文字通り「地球人」である。地球人は 21 世紀に地球という惑星に生存するホモサピエンスという点では一種である。ただその中にさまざまな人種があり，文化を持ち，社会を築き，それぞれの国や地域に住んで，実に多種多様である。グローバルな視点を持つとは，そういった多種多様な違いを決して強要することなく，お互いが認め合いかつ地球人として共存していくことである。現代は果たしてグローバルな社会といえるだろうか。互いに自国や領土，文化，社会を強く主張し，憎しみ合い傷つけあうことがいたるところで繰り返されている。われわれが共に「地球人」であることが忘れ去られている。

グローバル人材育成が，これからの未来を築く子供たちを真にグローバルな人材として導き育て，彼らが真のグローバルな社会を築くことができるよう祈るばかりである。

平成 29 年 3 月（記）

附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会委員長

沖花彰

Ⅰ　理論編

１　平成 28（2016）年度の年間日程

2016.3.28　平成２７年度京都教育大学附属学校部合同研究発表会
「幼稚園から高校までの系統的グローバル人材育成カリキュラムについて
ーカリキュラム具体化の進め方ー」

【以下 2016.4 から 2017.3】
2016.6.1 京都教育大学教育研究交流会議
テーマ：「幼稚園から高校までのグローバル人材育成カリキュラムについて
ーカリキュラム素案作成ー」
グローバル人材育成プログラム開発プロジェクト委員
6.1　京都教育大学教育研究交流会議の平和・国際教育分科会
〇佐古孝義先生（高校）報告
6.24　グローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会の開催
8.23　15:00-17:00
第１回グローバル人材育成カリキュラム開発検討会の開催
大学図書館 2 階セミナー室
10.7
第１回グローバル人材育成推進会議の開催
12.26
第２回グローバル人材育成カリキュラム開発検討会の開催
内容
（１）附属学校園によるプロジェクト授業の実践と検討の方法
（２）附属高等学校の SGH と、グローバル人材育成に関する報告
（３）その他
2017.2.22　グローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会の開催
3.4　平成２８年度京都教育大学附属学校部合同研究発表会
「グローバル人材育成プロジェクトについて」
3.22
第２回グローバル人材育成推進会議の開催

２　幼稚園から高校までのグローバル人材育成のカリキュラム素案

（於：京都教育大学教育研究交流会議　2016.6.1）

村上登司文

１．カリキュラム素案

京都教育大学が規定するグローバル人材像とは（平成 26 年 10 月の資料では）

グローバル人材とは：　暮らしている地域や自国及び世界の国々の歴史や文化について広く深い知識をもつとともに、母語や国際共通語としての英語を活用して、多様な価値観や文化的背景をもった人々と対話し、協働して様々な課題を解決しようとする人。

目的：　グローバル人材をめざして、必要とされる資質・能力を育成する。

対象：　幼稚園～高等学校、特別支援学校の児童生徒園児

目標：　“これからのグローバル社会をよりよく生きる”　に向けて、子どもを育成するうえで有効で系統的なカリキュラムの開発を進める。子どもの発達段階に応じ、附属学校園間で連携し、社会に開かれた教育課程の視点に基づいてカリキュラム・マネジメントを充実させる。

京都教育大学での開発の経緯

【平成 26 年度】

①平成 26 年度に各附属学校園にて現状調査：「グローバル人材育成に関連する教科内容や活動」

②平成 26 年度末に、各附属学校園からグローバル人材育成に関連する授業実施計画（平成 27 年度分）を提出。

【平成 27 年度】

①各附属学校園で、グローバル関連授業を公開（40 以上の公開授業）

②平成 27 年 12 月に開催の京都教育大学フォーラムで「グローバル人材育成のカリキュラム素案」を発表

③平成 28 年 2 月に附属学校部合同研究発表会で素案の説明

④平成 28 年 3 月のプロジェクト全体会で、カリキュラム素案の説明と、カリキュラム具体化の進め方を提案

２．各附属学校園でグローバル関連授業の公開

平成 27 年度の各附属学校園での教育実践

約 40 の授業実践を公開

（幼稚園１、小学校 11、小中学校 10、中学校８，高等学校７、特別支援学校３）

公開授業（平成 27 年度）の教材とグローバル人材育成の「接点」について

指導案などからの抽出した記載事項

〇附属幼稚園

出会う･･･異なる言葉、生活、文化

コミュニケーションの力を育む遊具

〇附属桃山小学校

言葉や文化の違いを認め合い、さまざまな人たちとすすんで関わり合える。

伝統を再現するだけにとどまらず、新たに自分たちの音楽を創り出す。

自分が生まれ育った所に関心を持つためには、比較対象となるものが必要。

場面に応じて必要な情報を選択し、整理し、それらをまとめて発信する。

〇附属京都小中学校

自己紹介→気持ちを英語で伝える挨拶

外国の物語や民話との出会い→異文化に興味や関心を持つ態度

小学 2 年生が 1 年生（下級生）に校内を案内

ダンボールを使った 3 人組の共同制作で、「聞く」ことを重視する活動

よい聞き手になろう、よりよい話し合いをしようをテーマ

おもてなしの心や、相手を大切にする心情を育てることは、自国の文化を尊重するだけでなく、他国の文化を大切にすることにつながる。

これからの自動車を考える･･･過去、現在、未来といった視点を持つことは、グローバル人材として必要な資質・能力。

〇附属桃山中学校

違う環境の下で生活している人の思いや主張を知る。

近年多発している自然や人的災害にどう向き合っていくかを考える。

柔道で技のエキスパートとなり、他の班に伝達する(伝達学習で発言力を高める)。

〇附属高等学校

「グローバルビンゴ」で、生徒に概念だけの「グローバル化」ではなく、生徒に実感として体得させる

ゲスト講師の専門家から、聴く・話すのコミュニケーション、協力して合意形成、英語による落語、紛争地のリアルな実情、外交交渉の最前線、などについて話をきく。

風呂敷を通じて、日本の包む文化について改めて考える。

グローバル課題の解決に関連する生徒の自主的活動組織（「国際同盟」）を支援する。

〇附属特別支援学校

ゲストティーチャーを通して、英語に親しむ。

平成 27 年度のグローバル人材育成の教育実践における肯定的に評価される側面

幼稚園から高校までの網羅性と系統性

幼稚園･小学校低学年において体験的な活動、小学校中学年から中学校段階で、より教科学習の知的な側面が強調され、高校段階では、より応用的な内容、また実践的かつ主体的な活動がなされている。

小学校英語の授業開発との相乗効果がある。

附属小学校での英語運用能力向上の活動に連結している。

他の教科･活動で培われた知識や態度などが、改めて、英語の活動として深められている。

京都の伝統文化を生かした授業がある。

一般的で平板な日本文化の学習ということではなく、京都という地域に根ざした主題の選択･教材化が図られている。

伝統文化の学習において、自文化中心主義に陥る可能性を慎重に避けている。例えば、日本（京都）の伝統文化の学習と、他の文化圏の音楽の学習を一つの単元の中に織り込んでいる。

平成 27 年度の教育実践の成果と課題

○成果

創意工夫された題材と教材

社会、国語、道徳、英語、「メディアコミュニケーション科」、総合学習、国際交流活動、体験活動の活用

情報機器の利用や授業方法の工夫

外国の学校とのつながり（相互訪問・帰国生徒など）を活かしている。

授業方法や活動方法も視野に入れている。

○課題

グローバル人材育成としてのねらいが充分に意図されていない

教育内容（コンテンツ）か、教育形態（汎用的資質･能力）の区別が未整理

授業間や活動間のつながりがあまり意識されていない。

児童生徒の発達段階や学校段階が充分に考慮されていない。実践を発達的に位置づける枠組みをまだ提供できていない。

課題として、授業の事後協議を行い、提案授業について研究成果を検討し、教育実践研究を深める。（学習指導と学習評価の PDC A サイクルが必要）

３．カリキュラム素案の枠組み

（出会う→広がる→つながる）×重ねる

各ステップの説明は以下の通りである。

〈出会う〉では、異なる言語や文化との出会いを通して、知識や理解を深め、技能を高める。

〈広がる〉では、異なる言葉や文化についての知識や技能を用いて、グローバルな課題について思考や判断を深め、表現する。

〈つながる〉では、異なる文化や人々と協働的に関わり、グローバル社会でよりよい人生を送る情意や態度を形成し、地域社会や世界とつながる。

〈重ねる〉は、（出会う→広がる→つながる）のサイクルを繰り返し、その学習を積み重ねる。

（出会う→広がる→つながる）×重ねる　イメージ図

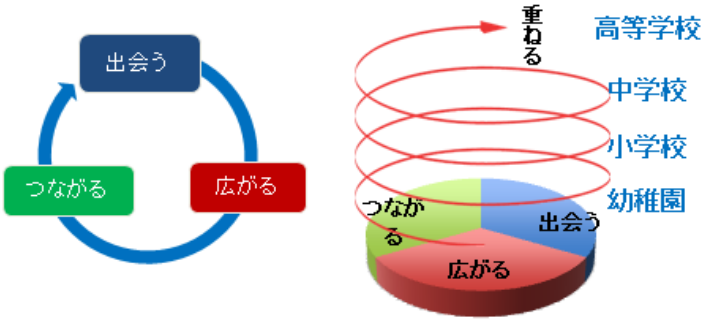


図1　グローバル人材育成のイメージ　　10

発達段階別にみた人材育成の特徴

《前基礎》：幼稚園

異なる文化に出会う。周りの子どもや大人との出会いが増え、異年齢の子どもと交流し、外国人と出会う。

《基礎前期》：小学校 1,2,3,4 学年

《小学校 1･2 学年》自分と異なる文化や外国の人と出会う。異なる文化を知る機会があり、異なる世界に触れる。

《小学校 3･4 学年》世界が一つにつながるというグローバルな社会に関心を持ち、世界の国との違いを知る。異なる言葉や文化の人々と出会い、共感的につながる。 英語を使って外国の人と言葉を交わし、つながりを深めていく。

《基礎後期》：小学校 5･6 学年

身近な場所で様々なグローバルな課題に出会う。グローバルな社会について教科などで学び、知識を得て、理解するようになる。メディアを使ったコミュニケーション力を

高める。

《充実期》：中学校 1･2･3 学年

異なる文化や外国の人々と出会いや関わりを重ね、またグローバルな社会についての知識を基に、グローバルな課題について考え、グローバルな社会の一員として世界とつながる。

英語運用力を向上させて、グローバルな社会について意見を交流する。

《発展期》：高等学校 1･2･3 学年

中学校までのグローバルな社会についての知識を基に思考を深め、グローバルな課題に対して関わりを深める。グローバルな課題を自分の課題でもあると共有し、その課題の解決に向けて貢献しようとする。よりよいグローバル社会に向けて、主体的に地域社会や世界とつながろうとする。

グローバルな課題について意見を交流する力や、課題解決に活用できる英語力の形成をめざす。

系統的な発達段階別学習目標の構造

発達段階	学校段階	出会う	広がる	つながる
発展期	高等学校	重ねる	重ねる	グローバルな課題を共有し、協働して解決に向かおうとする
充実期	中学校	重ねる	グローバルな課題について考える	グローバル社会の一員としてつながる
基礎後期	小学校高学年	グローバルな課題について知る	グローバルな社会について考える	世界の文化や人々とつながりを深める
基礎前期	小学校中学年	グローバルな社会について知る	世界との関係を考える	異なる文化や人々とつながる
	小学校低学年	世界の国々と出会う	異なる言葉や文化を考える	
前基礎	幼稚園	異なる言葉や文化に出会う		

発達

4．平成 28 年度のカリキュラム具体化の進め方

各附属学校園の教員が行う授業実践研究の集合体として、カリキュラム開発を進める。
下記はその進め方（チェック項目）である。

平成 28 年度の教育実践と公開授業に向けて

①グローバル人材育成の学習内容（コンテンツ）を開発したか。

学習内容を精選し、学習内容を関連づけ、効果を予測しているか。（つながりや連携を確認したか）

②育成する《汎用的能力》を焦点化し、その資質・能力を形成しようとしたか。

各附属学校園で、ねらいを確認し、重要概念（キーワード）を整理したか。

（1）単元開発や学習指導案の作成

具体化のための項目について

【単元目標・単元計画】

単元目標や単元計画に、グローバル人材育成の関連する記述を入れているか。

【固有（特徴ある）の学習目標の作成】

①「グローバル人材育成カリキュラム」の学習目標（めあて・ねらい）があるか。

②指導案に、「教科等」と、「グローバル人材育成」の学習目標とを並記しているか。

③グローバル人材育成に関わる重要概念（キーワード）を用いて、単元や授業の目標を明文化しているか。

【題材の選択】

①既存の題材をグローバル人材育成の視点から問い直したか。

②教育内容（教材、題材）にグローバル社会に関する事項が入っているか。

③子どもの発達段階に応じて、グローバルな題材を提示したか。

④教科や総合学習、特別活動などで扱う題材の連携を図ったか。

（2）教育形態やカリキュラム化

【教育形態の選択】

①アクティブ・ラーニング（課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び。例えばペアで意見交換、小さいホワイトボートや付箋を利用した話しあい、立場を決めての議論、ポスター作成と発表、児童・生徒による説明、など）を活用しているか。

②教育方法として、《汎用的能力》を人材育成に援用しようとしているか。

【カリキュラム化に向けて】

①単元または教科・総合学習・特別活動などに入れたグローバル人材育成の学習目標を相互に関連づけているか。

②（教科、学年、学校）カリキュラムの中に、グローバル人材育成に沿った学習目標を段階的に設定しているか。

③学校内のグローバル人材育成のカリキュラムを、連結する学校種で開発されたグローバル人材育成の単元や、作成された学習指導案と関連づけようとしようとしているか。

3　カリキュラムの基本的な考え方

浜田麻里

1.　グローバル人材育成プロジェクトのこれまで

1.1　平成 26 年度

・グローバル人材育成：グローバルな社会でよりよく生きていくことができる人間の育成

cf.　「グローバルな社会」神代発表参照

・「英語」「コミュニケーション」「多文化」の視点から資質を検討

・各附属学校園の授業実践，活動実践を整理し，上記の目的に合致する要素を抽出

1.2　平成 27 年度

・発達段階別のカリキュラム開発指針

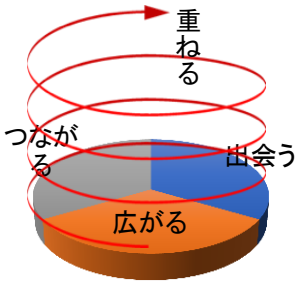
＜コミュニケーション＞

（出会う→広がる→つながる）×重ねる

＜多文化＞

（他者と自己→）異文化と自文化→日本と世界

→グローバル社会→グローバルな課題



1.3　平成 28 年度

・公開授業実施

発達段階	学校段階	出会う	広がる	つながる
発展期	高等学校	重ねる	重ねる	グローバルな課題を共有し、協働して解決に向かおうとする
充実期	中学校	重ねる	グローバルな課題について考える	グローバル社会の一員としてつながる
基礎後期	小学校高学年	グローバルな課題について知る	グローバルな社会について考える	世界の文化や人々とつながりを深める
基礎前期	小学校中学年	グローバルな社会について知る	世界との関係を考える	異なる文化や人々とつながる
	小学校低学年	世界の国々と出会う	異なる言葉や文化を考える	
前基礎	幼稚園	異なる言葉や文化に出会う		

2.　次期学習指導要領を視野に入れて

2.1　次期学習指導要領で養おうとする資質・能力

中央教育審議会「幼稚園小学校高等及び特別支援学校の学習指導要領等改善及び必要な方策について」（2016.12.21）

・教育課程の改善のポイント（p.21）

①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）

②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）

③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）

④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）

⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）

⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

・資質･能力の三つの柱(p.28-31)

①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力(p.39)

（変化の中に生きる社会的存在として）

「平和で民主的な国家及び社会の在り方に責任を有する主権者」「公正な世論の形成，政治参加や社会参画」「多様性が高まる社会おける自立と共生」

（グローバル化する社会の中で）

「グローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力の育成」「多様な人々と目的に応じたコミュニケーションを図れる」「文化や考え方の多様性を理解し，多様な人々と協働していくことができるようにする」「挑戦し，やり遂げる」「多様性の尊重」「国際平和に寄与する態度」「他者への共感や思いやり」「地域や地球規模の諸課題について，子供一人一人が自らの課題として考え」「持続可能な社会づくり」

「教科等横断的なテーマであることを踏まえ、それを通じてどのような力の育成を目指すのかを資質・能力の三つの柱に沿って明確にし、関係教科等や教育課程全体とのつながりの整理を行い、その育成を図っていくことができるようにすることが求められる。」（p.41 下線浜田）

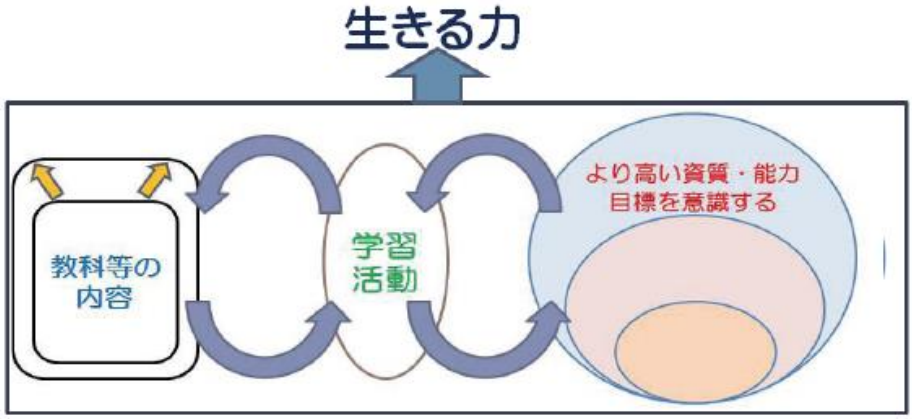
2.2　グローバル人材育成は「目標」なのか「内容」なのか「方法」なのか。

・次期学習指導要領では，資質・能力を教科の学習で学習対象としやすい事項と関連付けながら育み，それをさらに教科横断的な学びで活用する必要があるとされている。

　グローバル人材に求められる資質・能力についても，教科学習を通して養われる部分は大きい。（例：理系科目でも，解決の構想を立てて考察する（数学），目的をもって観察・実験し探求する（理科）等の重要な資質・能力が養われる）。

➡「内容」としてグローバル化を扱わない教科でもグローバル人材育成に関わっていないわけではない。むしろ，全ての教科の「目標」が資質・能力の育成と捉えられる。

・また，資質・能力を身につけるために学びの質を向上させ，主体的・対話的学び，深い学びを実現するような授業改善を行うことが求められている。すなわち，全ての学習活動をこれまで本プロジェクトが目指してきたような資質・能力が育成されるものにしていくことが求められている。



図ｉｅ：学びのサイクルが一人一人の生きる力につながる

➡「方法」の面では本プロジェクトの特色を出しにくい。

（国立教育政策研究所(2015)『資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書 1～使って育てて 21 世紀を生き抜くための資質・能力～』）

3.　グローバル人材育成プロジェクトを次期学習指導要領にどのように位置づけるか

3.1　各教科等の特質に応じた「見方・考え方」（p.33）

「各教科等における習得・活用・探究という学びの過程において、…資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていく。…その過程においては、“どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか”という、物事を捉える視点や考え方も鍛えられていく。こうした視点や考え方には、教科等それぞれの学習の特質が表れる…各教科等の学びの中で鍛えられた「見方・考え方」を働かせながら、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出している…「見方・

考え方」には教科等ごとの特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなす」（p. 33-34）。」

➡各教科等の学習を通じて養われる「見方・考え方」以外に，グローバル学習にもその特質に応じた「見方・考え方」がある

➡グローバル学習の「見方・考え方」との関連で発達段階別の目標を捉える

3.2　グローバル学習に何が求められるか

■国連・世界教育推進活動(2014　国連ウェブサイトより)

「教育は変革的で，共通の価値に命を吹き込むものでなければならない。…技術発展や政治活動や財政発動だけでは持続可能な開発を成し遂げることはできない。より公正，平和，寛容かつ包摂的な社会を人々が構築できるようにすることが教育の中心的な役割だと考えなければならない。21 世紀の複雑に絡み合った課題を協力して解決するために必要な理解，スキル，価値観を，教育は人々に与えなければならない。」（日本語訳，下線は浜田）

■佐藤郡衛（2015:19）「国境なき医師団」等のＮＰＯの活動　「アフリカ，中近東や世界と直接結びついており，国という枠組みだけに縛られているわけでも，国を否定したり，あるいはそれを超えたりしているわけでもない。」

3.3　グローバル学習における**見方・考え方**

① 人類共通の価値観を踏まえて判断する（公正さ，平和，人権，寛容さ，多様性の享受…）。
② グローバル化によって生じる様々な現象を批判的に捉え，課題を発見する
③ 複雑に絡み合った事象をグローバルな視点から読み解く
④ 様々な課題を特定の文化や国に縛られず多元的に捉える
⑤ 多様な文化や言語の違いを調整して，他者と協働する
⑥ 持続可能な開発のために意思決定を行う
⑦ よりよい世界のあり方を構想し，社会参画を通じてその実現のために行動する

3.4　各発達段階における目標案（現在改訂作業中）

高校	グローバル化した社会の現状を読み解き，課題を多元的な視点から捉えることができる。また，他者との言語や文化の違いを調整しながら，平和，寛容，包摂，人権等の価値観を踏まえて批判的に思考，判断し，解決を構想することができる。
中学校	グローバル化によって生じる社会的な課題を理解し，多面的に捉えることができる。また，他者との考え方の違いを調整しながら世界の人々がよりよく生きるために批判的に思考し，解決の方法を判断することができる。
小学校 高学年	グローバル社会に見られる課題を知り，課題に対するさまざまな捉え方があることを理解することができる。学習したことを元に，世界の人々とともに生きていくための課題の解決に向けて自らの関わり方を判断することができる。日本語や外国語によるコミュニケーションを通して他者との関係を構築することができる。
小学校 中学年	日常生活のさまざまな事象が世界とつながっていることを理解することができる。言葉や文化のちがいを越えて伝え合い，聞き合うことを楽しむことができる。地域の特色や課題について，知らない人に日本語や外国語で伝えること等を通して，文化の違いや世界と地域の関係を考えることができる。
小学校 低学年	さまざまな国があることを理解することができる。外国語を用いて他者と関わることや，伝統文化を実践することに関心を持つ。言葉で思いを表現し，クラス等身近で起こった問題の解決のために行動することができる。
幼稚園	さまざまな言語や文化があることを理解することができる。言葉で思いを表現することによって，身近な友達との間で起こった問題について，解決のために行動することができる。

3.5　「出会う×広がる×つながる」との関わり案（現在改訂作業中）

		出会う （知識・技能）	広がる （思考力・判断力・表現力）	つながる （社会参画力）
	見方・考え	③グローバル化や持続可能な開発に関わる課題についての情報収集 ⑤異なる文化や言語を知る	②批判的な捉え，課題発見 ③グローバルな視点から読み解き ④多元的な捉え ⑤多様な言語や文化の調整	①価値観，⑤協働 ⑥意思決定 ⑦社会参画，行動
発展期	高校	・グローバル化した社会の現状や課題について情報収集，理解 ・日本語や外国語のコミュニケーション	・グローバル化した社会の課題をグローバルな視点から読み解き ・日本語や外国語を用いて人間関係を調整	**グローバルな課題を共有し協働して解決に向かおうとする** ・人類共通の価値観を踏まえ解決へ向けて意思決定
充実期	中学校	**重ねる** ・グローバル社会で起こる事象の情報収集，理解 ・日本語や外国語のコミュニケーション	**グローバルな課題について考える** ・グローバル化によって生じる社会的な課題の多面的捉え	**グローバル社会の一員としてつながる** ・他者との考え方の違いを調整しながら社会的な課題の解決方法構想
基礎後期	小・高学年	**グローバルな課題について知る** ・グローバル社会で起こる事象について情報収集，理解	**グローバルな社会について考える** ・グローバル社会の多面的な捉え ・他者との関係をコミュニケーションを通して調整	**世界の文化や人々とつながりを深める** ・ともに生きていくために，自分は世界の人々とどのように関わるかを考え，進んで関係構築 ・社会的な課題の解決に向けた行動
基礎前期	小・中学年	**グローバルな社会について知る** ・日常生活の様々な事象が世界とつながっていることの理解	**世界との関係を考える** ・地域の特色や課題は何かの考察	**異なる文化や人々とつながる** ・伝統文化のよさを他者に伝える ・言語や文化を越えて協働
	小・低学年	**世界の国々と出会う** ・さまざまな国があることの理解	**異なる言葉や文化を考える** ・外国語を用いた他者の関わり ・伝統文化への関心	（身近な問題の解決のために行動）
前基礎	幼稚園	**異なる言葉や文化に出会う** ・さまざまな言語や文化があることの理解 ・言葉で思いを表現	（身近な友達との間で起こった問題について考える）	（友達との間の問題の解決のために行動する）

4.　グローバル学習の進め方

①教科横断型の学習「**島づくり（授業ユニット）**」

教科のカリキュラムを基盤としながら，グローバル学習としての見通しを持って学習をつないでいく（神代発表参照）

②教科学習等の中での資質・能力の養成

4　グローバル人材育成プロジェクト平成 28 年（2016）年度の振り返り

（2017/3/4）

神代健彦

2016 年度グローバル人材育成プロジェクトのなかで、本学附属学校園で開発された授業についてのまとめ、振り返りを報告したい。

図1　系統的な発達段階別学習目標の構造

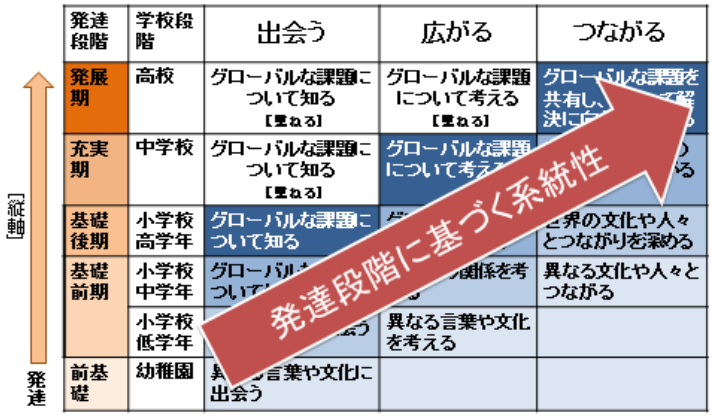


図１は、現在本プロジェクトで暫定的に用いている、発達段階別学習目標の構造図である。縦軸は発達段階を、横軸は、プログラムのキーワードとなる「出会う」「広がる」「つながる」の別を示している。開発された授業は、本年度より本格化した、大学教員による授業フィードバックコメントに基づき、この図のなかで相応しい位置にプロットされる。

ここで、キーワードとなっている 3 つのステップについて説明したい。

出会う：他者、異文化の存在に気付く／気づかせる

広がる：「出会う」では「点」であった他者や異文化について、教科学習を介して、それらがつながっていく。知識が深まる、視野が広がる。また、（外国語など）技能的に、「つながる」への準備がなされている。

つながる：いままで培った知識や技術、幅広い視野や深い思考力を用いて、現実の他者との協働が模索される。対立や価値を乗り越える態度が養われる。

このような 3 つの性格（ステップ）に区別される授業が、カリキュラムを構成することになるが、系統性という観点からみれば、目指すべき構図としては、図中の右肩上がりの矢印のように分厚いプロット群が形成される形といえるだろう。「出会う」中心の幼稚園段

階から、「つながる」中心の高校段階まで、ゆるやかな系統性が見出されるようなかたちが目指される。

これに基づいて、今年度に開発された授業をマッピングすると、図２のようになる。数字は、別表１中の番号に対応している。傾向としては、小学校高学年段階で、やや「広がる」、すなわち、教科学習とリンクした、知識の深まり、視野の広がり、分析的な思考を導く授業が少ない印象だが、それを除けば、おおむね理想的な形に近づいていることがわかる。

図2　2016年度授業のマッピング

発達段階	学校段階	出会う	広がる	つながる
発展期	高校		23 28 29 30	22 24 25 26 27
充実期	中学校 18	12 15 17	16 19 20 21	13 14
基礎後期	小学校高学年	8		9 10 11
基礎前期	小学校中学年	5	6 7	
	小学校低学年		4	3
前基礎	幼稚園	1 2		

[軸] 発達

次に、図３は、開発された授業の教科等の別を示したものである。

図3　2016年度授業のマッピング（教科）

発達段階	学校段階	出会う	広がる	つながる
発展期	高校		家 国 国 生	現 英 理 英 国
充実期	中学校 理	英 国 社	英 道 社 国	社 道
基礎後期	小学校高学年	国		英 英 体
基礎前期	小学校中学年	英	英 社	
	小学校低学年		英	体
前基礎	幼稚園	活 生		

[軸] 発達

以上の成果を踏まえて、現状と課題を考察した結果、以下に示す「強み」と「課題」が浮かび上がった。

強み

①既存の教科内容を巧みに用いた、現実的な授業開発。

②発達段階別構図が、少しずつ現れつつある。

③英語科の授業研究や、教科横断的コンピテンシーの追求など、
現在の教育改革のなかでの授業開発との相乗効果がでている。

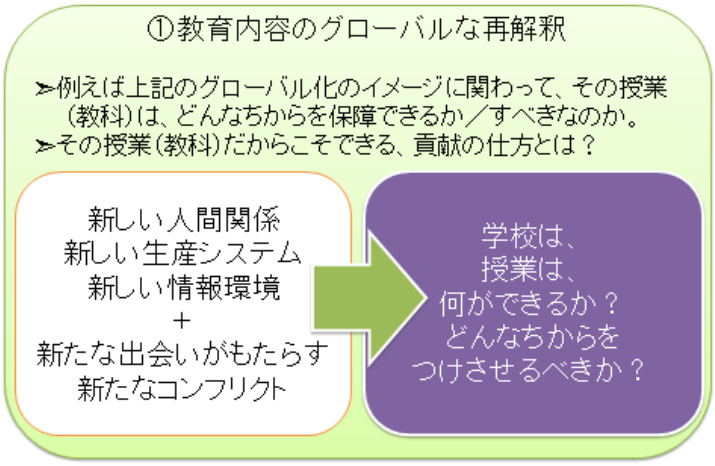
課題

①グローバルは応用的になりがちなため、一つの授業なかで十分な
時間が取れない例が散見される。

②グローバル＝アクティブラーニングという理解が散見される。
グローバル化という現象の共通理解を深める必要がある。

③理数系教科の開発が遅れ気味。

一つ目の課題についての対応について。基本的には、グローバル化していく社会のなかでどんな力が必要か、という観点を持ち、そこから逆算して、学校ではどんな力を付けさせるべきか、という発想で既存の授業を見直す必要があると考えられる。



そこで、グローバル化現象の共通理解が重要になってくるが、ここでは暫定的に、このように以下のようにまとめておきたい。

【グローバル化とは】

ヒト・モノ・カネ・情報が地球規模で繋がって展開していくこと、そしてそこには必然的に、さまざまなコンフリクトがともなう。

このように考えれば、グローバル人材育成プロジェクトは、地球規模での人類の協働と、そこにしばしば生じる対立を超えていく思考をどのように育んでいくか、ということが重要となる。加えて、グローバリゼーションは、国境を前提としたものの捉え方、すなわち、

国際化（インタナショナリゼーション）とは違う局面を示しているという理解も重要となってくる。

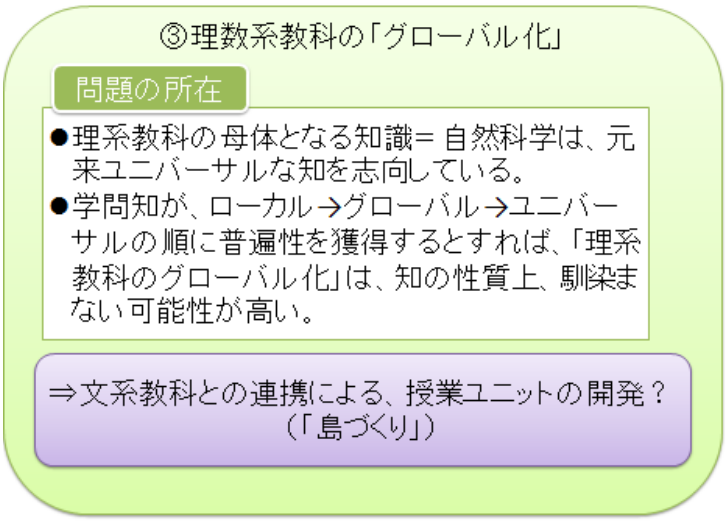
また、さらに付言すれば、ここに言うグローバル人材育成とは、「日本を飛び出し、世界市場のなかで働く人」すなわち、「グローバルエリートを育てる教育」のみを意味しない。本プロジェクトは、日本社会の内なるグローバル化に対応する教育、というイメージを強く持っている点が重要である。これは必ずしも「グローバルエリートを育てる教育」を排除するものではないが、しかし重要なのは、日本社会がグローバル化（「内なるグローバル化」）するとき、そんなグローバル化した日本社会で生きていくために保障すべきちからはなにかという発想を、意識していかねばならないということにある。

②「グローバル化」の共通理解

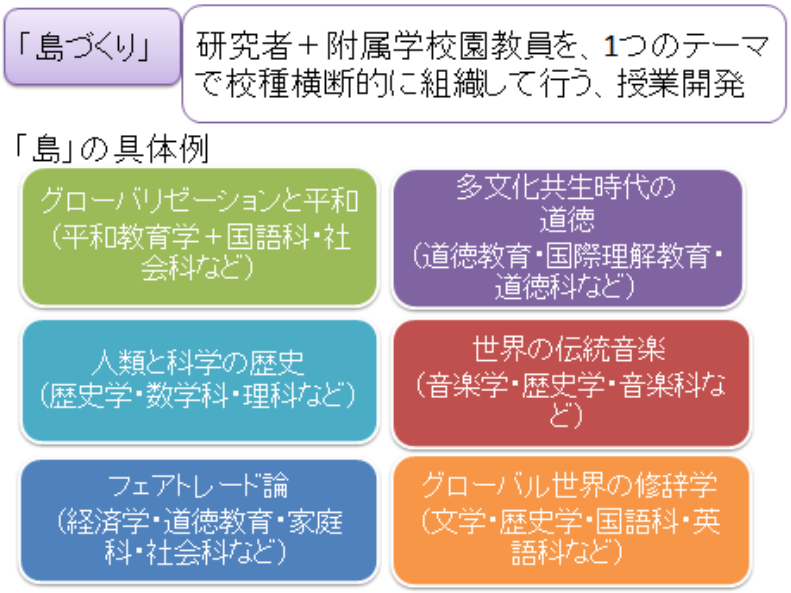
- 「異なる文化的背景を持つ人が出会う社会（人間関係のグローバル化）」
- 「地球規模の協働の産物として商品（モノやカネのグローバル化）」
- 「新しいコミュニケーションツールによって世界がつながる（情報のグローバル化）」
- これらに付随する、不正義、葛藤（コンフリクト）、対立、の理解（搾取、紛争、環境問題・・・）
- その対立を超えていく思考
- 「国際化（インターナショナリゼーション）とは違う局面」という理解

キーワード：「内なるグローバル化」

最後の課題が、理数系教科のグローバル化である。実のところ、この点の難しさは、理数系教科の母体となる知識、自然科学は、もともとユニバーサルな知を志向している、という原理的な事実から生じていると思われる。授業のグローバル化は、従来は国という枠組みで相対的に強く規定されていた授業開発のあり方を、むしろ地球規模の事物のつながりという観点からとらえ直すことに主眼の一つがあるが、自然科学の知はそもそもユニバーサル（普遍的）な知を志向するものであり、したがってそのようなユニバーサルな知をグローバル化するというのは、ややもすれば、知の普遍性の階梯を逆戻りする、ということになりかねないからである。ここに、理数系教科のグローバル化の困難があると考えられる。これについては、新しいアプローチが必要になってくると思われる。



島づくりの説明



ここでこれら諸課題を鑑みつつ、平成 29 年度以降の授業開発構想である「島づくり」について簡単に紹介しておきたい。現在検討中の島づくりとは、研究者＋附属学校教員を、一つのテーマのもとにあつめ、校種横断的に組織して行う授業開発のプロジェクトである。以前本プロジェクトでは、「英語」「多文化共生」「コミュニケーション」という WG をつくって検討していたが、島づくりは、それを発展的に解消し、再組織化したものである。

まだ検討段階ですが、島の具体例としては、例えば上記のようなものを検討中である。例えば島「グローバリゼーションと平和」では、大学所属の平和教育学の研究者、附属学校園の国語科、社会科教員等を組織し、校種横断的に、グローバル化する現代社会のなかで平和について学ぶ授業を開発するということが想定される。あるいは、同様に大学の道

徳教育担当者および附属学校園教員による、「特別の教科　道徳」のグローバル化を狙いとする島、科学技術史も含めた人類史・文化史という観点で、既存の教科学習を再検討するような島なども考えられる。

これらはあくまで構想案であるが、ともあれ、これまでの授業開発と並行しつつも、大学と附属学校園の間で、より個別具体的な授業の研究開発をおこなう単位を組織したいというのが、この「島づくり」構想である。

4の2

2016年度授業開発一覧

発達段階・テーマ	公開する学校園・場所	教科など	科目・授業内容など	授業者	実施日	ステップ	番号	備考
前基礎（幼稚園年少組～年長組） ～異なるものとの出会い～	附属幼稚園 5歳児さくら組保育室	活動	保育について：日本の伝統行事“七夕”に親しむ	高野史朗、ゲスト講師 サンフォ モサマドゥ	2016.7.7	出会う	1	○ジョン先生により親しみを感じながら、すすんでかかわろうとします。 ○日本とは違う国の人に、七夕や盆踊りなどについて言葉や体の動きで伝えようとします。 ○日本とブルキナファソでは文化の違いがあることを知ります。 →外国語人と文化についてやりとりをする…【出会う】
	附属幼稚園 5歳児（さくら組、うめ組）	生活	お手玉を教えてもらうことを通して、教えてくださる方に親しみをもったり、繰り返しやってみようとしたりしながら、昔から遊び継がれてきたあそびに触れる。	高野史郎、大嶋舎員莉、新井麻佑	2016.11.28	出会う	2	日本文化の独自性・文化の多様性(お手玉、遊び唄)に気付く体験。日本の伝統文化に【出会う】
基礎前期（小1～小4） ～異なる言葉や文化～	附属京都小中学校1年い組	体育	単元名：シュートゲーム	岡 菜補子	2017.2.2	つながる	3	スポーツの枠組みを利用した「公正」「協力」「積極性」等の価値・態度の学習。スポーツを通じて他者とよりよく【つながる】
	附属桃山小学校 英語ルーム2年生	英語	英語： How many dogs? 言葉や文化の壁を越え、すすんで関わりあえる人の育成	井田裕司、John Sanfo、竹内優有	2016.6.27	広がる	4	グローバル社会においてさまざまな国の人々とやり取りし、関わり合うことが必要となる。そのために本校の外国語活動は英語を使えるようになることだけでなく、すすんでやりとりし、自国や他国について理解することを目標としている。 →他者とコミュニケーションするため、外国語に親しむ…【広がる】
	附属京都小中学校 4年ろ組教室	英語	英語、単元名：いろいろな国を知ろう	水野和弘	2016.7.13	出会う	5	グローバル人材育成で求められる「世界に目を向け、それぞれの国が持つ特徴や違いなどに気づく」といった点と、「自分の伝えたいことを根拠を持って英語でわかりやすく相手に伝える」ことを目指しておられる点が、特に本授業の強みであると考えられる。世界の国々との違いに気付く【出会う】
	附属桃山小学校4年1組教室	英語	英語 単元名 Who am I？ ～私はだれでしょう～	竹内優有(JTE) Jason Davidson(ALT) 長野健吉(HRT)	2016.10.19	広がる	6	他者とコミュニケーションするため、外国語に親しむ【広がる】
	附属桃山小学校3年1組教室	社会	社会 単元名 昔のくらし	池田恭浩	2016.10.20	広がる	7	桃山地区の古地図を読み解くという主題は、グローバル社会を生きる核となるアイデンティティの確認・涵養としての地域社会（の歴史）という意味を持つ。漠然とした地域の認識を、古地図の読み解きを介して知的に認識し直すという意味で、【広がる】に位置づく。
基礎後期（小5～小8） ～世界の文化や人々～	附属桃山小学校 6年1組教室	国語	単元名 伝えられてきたもの 狂言「柿山伏」	井上美鈴	2016.9.30	出会う	8	・学習が終わったあとに、古典に親しむ姿勢が育っていることや古典の内容と現代の共通点などが気づけるようにしていきたいと考えている。世界を知るためには、その前にまず自国の文化をしっかりと知っておく必要があるだろう。そのきっかけになるような授業としたい。 →日本文化に【出会う】
	附属桃山小学校 5年1組教室	英語	単元名 What do you want to do? ～自分が住んでいる地域のおすすめを伝えよう～	竹内優有(JTE) Jason Davidson(ALT) 諏訪宏志(HRT)	2016.9.28	つながる	9	自分の暮らす地域の魅力について楽しみながら友達に伝えるという、他者と【つながる】活動。
	附属桃山小学校：6年2組教室	英語	英語 単元名：Where is it? テーマ：言葉や文化の壁を越え、すすんで関わりあえる人の育成	竹内 優有 ジェイソン・デヴィッドソン 若松 俊介	2016.7.6	つながる	10	言葉や文化の壁を超えて【つながる】
	附属桃山小学校体育館：6年1組	体育	ソフトバレーボール テーマ：言葉や文化の壁を越え、すすんで関わりあえる人の育成	井上 美鈴	2016.7.6	つながる	11	バレーボールを介して、他者と【つながる】
	附属桃山中学校1年3組教室	英語	英語科： 単元名：季節と月 テーマ：月ごとの行事から、外国と日本との文化的な違いを知る。	津田優子、John Sanfo	2016.6.29	出会う	12	ビンゴゲームなどで生徒の興味関心を引きながらの授業は楽しく入りやすい授業だと思います。また常にペアを組んで質問したり答えたりすることでコミュニケーションの道具としての英語が定着すると思われます。ALTの先生のPPTによる説明を聞き取る練習も異文化に触れるという点でよかったと思います。ALTの先生、異文化と【出会う】 追加です：ビンゴゲームやペアワークでコミュニケーションの道具としての英語が定着する。ALTの先生のお国（ブルキナファソ）の紹介PPTによる説明は異文化に触れる活動になる。この発展として日本（京都）の紹介を自分たちで考えて紹介するという場面が後半あるのだがそれは「ひろがる」「つながる」にはならないか？
	附属桃山中学校学年：1年3組	社会	社会科（地理的分野）世界の生活をふりかえろう（グローバルとローカルの視点から、世界のグローバル化について考え深める）	坂田良久	2016.6.16	つながる	13	「グローバル」と「ローカル」の長所と短所について、グループで話し合う活動が取り入れられていた。→【つながる】
	附属桃山中学校 1年4組教室	道徳	道徳： 単元名：自分の価値・友達の価値テーマ：滞在国での体験を通して、「差別」を考える	渡邊惠子	2016.6.29	つながる	14	「あってよい違い」（文化的多様性）と「あってはいけない違い」（差別的な思想）が主題の本授業は、異なる成育歴を持つ帰国子女の生徒が、互いの違いを精査し乗り越えを図るという意味で、「つながる」に位置づく。
	附属桃山中学校2年1組教室	国語	国語科、単元名：各政党のポスターを読み解こう（小学6年生との交流授業）	神崎友子	2016.7.8	出会う	15	授業は、小学校6年生と中学校2年生の異校種交流の形態で実施された。中学生は、小学生を助け、補う立場に置かれる。現実にグローバル的な視点に立ったとき、相手の弱い立場を前提とした行動が取れることは重要な能力といえる。自分とは「異なる」人々との協働学習は、社会参画能力として、協働による問題解決を図る能力の育成に直結する学習といえる。異なる意見と【出会う】
	附属桃山中学校 2年1組教室	英語	英語 単元名：「Enjoy Other countries'culture!」	黒川 愛子	2016.9.5	広がる	16	スタンダードな教材を用いつつ、観光にまつわる問題、地域文化（異文化）の尊重という、グローバルなコミュニケーション（異なる文化的背景を持つ者同士のコミュニケーション）において必要とされる視点が養われている点が、本授業を、グローバリゼーションを知的に吟味するという意味での【広がる】に位置づくものとしている。

充実期（中1～中3） ～グローバルな社会の一員～	附属桃山中学校　2年1組教室	社会	社会科（地理的分野）単元名：「世界の人口」テーマ：日本の問題を考えるときに世界から見た場合という視点を持つことが大切という認識を持たせる。	秋山雅文	2016.7.11	出会う	17	人口問題を切り口に，ローカルでは人口減少，グローバルには人口爆発といった現象のちがいから，ローカル／グローバルという視点を生徒たちが理解することができた→グローバルな問題と【出会う】 中国で活躍する日本人が中国語で話す様子を動画で見ることにより，グローバルに活躍するロールモデルと出会うことができた。→【出会う】
	附属桃山中学校 2年1組教室 3年4組	理科		荒木功		?	18	計器を用いて測定しながら、抵抗を求め、抵抗の規格値と比較し、そこに表れる違いについて、考えられる理由について班で討論するといった内容であり、与えられたことをうのみにせず、自ら疑問を持って取り組み生徒の能動的な学習活動になっており、グローバル人材養成の学習に通じるものと考えます。 追加です：理科という内容でどのような授業をすればグローバルになるのかということですが、国際的な研究グループで仕事をするときかなり強く自分の意見を主張できる能力が求められます。日本人は往々にして他人の意見を聞き過ぎるという悪い面？もあるんですが、入手する情報についてしっかり判断できるようになるために学習はグローバルの「つながる」にはなりませんか？
	附属桃山中学校　3年2組教室	道徳	道徳様々な労働観（時代・場所の違いから生まれる労働観を考える授業）	有田有志	2016.6.15	広がる	19	「働く」という事象を、「別の時代」「別の場所」という形で多面的に問い直している点をもって、【広がる】に位置づく。
	附属京都小中学校（東エリア）9年A組教室	社会	社会（公民）単元名　罪は何を意味するのか～死刑制度の是非を問う～	西田直記	2016.10.31	広がる	20	○大学のプロジェクト専門委員会で作成したカリキュラム案によれば、中学校段階の「広がる」の学習目標は、「グローバルな課題について考える」である。カリキュラム案において中学校段階の人材育成の目標は、「異なる文化や外国の人々と出会いや関わりを重ね、またグローバルな社会についての知識を基に、グローバルな課題について考え、グローバルな社会の一員として世界とつながる」であるので、それへの対応が可能な授業と言えよう。 →内容がグローバルな課題、方法として、ディベート的に賛否に別れての討論【広がる】
	附属京都小中学校　9年C組教室	国語	国語 単元名：挨拶-原爆の写真に寄せて- テーマ：詩に込められた作品の思いを捉え，人間や社会について自分の考えを深める	國原信太郎	2016.9.2	広がる	21	○教材は第2次大戦中の原爆投下、その被害と今との乖離をテーマとしており、教材そのものが原爆・核兵器を扱ったもので、グローバルな視点から世界の課題を考えるのに絶好の題材であった。 →内容がグローバルな課題を話しあいで深める【広がる】
発展期（高等学校） ～グローバルな課題の解決～	附属高校　1年2組	現代社会	現代社会 単元名（内容）　グローバルな視点から現代社会を考える―生徒発表	高田敏尚	2016.10.31	つながる	22	グローバル・イシューについてのプレゼンテーションが主題の授業である。生徒のグループが、それぞれにグローバル・イシューについて学ぶだけでなく、それを工夫しながらプレゼンテーションの形式に高めていくという課題が、【つながる】に相応しい。
	附属高校　2年2組	家庭科	ヒューマンライフサイエンス（家庭科）単元名（内容）　共生社会―児童労働をインドのコットン畑から考える	富田滋子	2016.10.31	広がる	23	3時限構成で，児童労働について学ぶ。各時限が「出会う」「広がる」「つながる」に相当。 本時はコットン畑での児童労働の現状や背景について理解を深めた→【広がる】
	附属高等学校	英語	コミュニケーション英語Ⅱ（台湾国立台中女子高級中学の生徒との交流授業：グループ活動を通しての自己紹介、国紹介）	境倫代	2016.4.28	つながる	24	異なる言葉や文化的背景をもった他者と【つながる】
	附属高等学校	理科	理科：テクニカル・サイエンス（台湾国立台中女子高級中学の生徒との交流授業：カード・ゲームを利用したプレゼンテーション活動）	岡本幹	2016.4.28	つながる	25	異なる言葉や文化的背景をもった他者と【つながる】
	附属高等学校	英語	グローバル英語2（ドイツEfriede Steinwand氏をお迎えし，附属高校生と京都の伝統文化等について語り合う国際交流授業）	佐古孝義	2016.5.16	つながる	26	異なる言葉や文化的背景をもった他者と【つながる】
	附属高等学校	国語	古典探求 単元名（内容）　ワッハッハッと笑ってウーンと悩む	札埜和男	2016.11.18	つながる	27	伝統芸能としての落語の技法である「ふり」を生徒が実演することで，とっさに限られた道具を活用する「創造的思考力」や異文化間のコミュニケーションに不可欠なユーモアのセンスを養うことを目指していた。→【つながる】
	附属高等学校3年2組、3年3組	国語	ゲスト講師の講演により、メディア・リテラシーを養う。	札埜和男 道浦俊彦氏：読売テレビ報道局専門部長（「情報ライブミヤネ屋」担	2016.12.7	広がる	28	世界の紛争とその報道について、テレビ制作現場で働くゲスト講師とのやりとりを通じて、批判的思考力を養う。そのことによって、視野や知識が【広がる】
	附属高等学2年2、3、4、5組	国語	ゲスト講師の講演を聞き、平和構築にあたって、メディアの持つ功罪を深く考え、平和を実現するためにはどのようにメディアと接すればよいかを深く考える	札埜 和男 先生，　ゲスト講師：西谷 文和氏（国際ジャーナリスト）	2017.1.31	広がる	29	現役の国際ジャーナリストが、現地取材（シリア内戦が中心）のビデオを映写しながら語る戦争の実態とその原因についての意見が、「メディアが形作る「現実」を批判的（クリティカル）に読み取る」という目的に意図的に資している。そのことによって、視野や知識が【広がる】
	附属特別支援学校　高等部3組	生活	外国のアーティストと作品の学習、模写	橋本鈴世、細川潤、山口知慧	2016.12.16	広がる	30	○色々な国のアーティストとその美術作品に興味をもち、美術館の利用など、余暇の外出先の幅をひろげる。 ○ピカソやゴッホなど、よく知られたアーティストについて知り、その作品を鑑賞し、クレヨンと絵の具を使って模写（彩色）に取り組む。そのことによって、知識や視野が【広がる】

一覧する便宜のため１頁にまとめた。

4の2

2016年度授業開発一覧

発達段階・テーマ	公開する学校・場所	教科など	科目・授業内容など	授業者	実施日	ステップ	番号	備考
前基礎（幼稚園年少組～年長組） ～異なるものとの出会い～	附属幼稚園　5歳児さくら組保育室	活動	保育について：日本の伝統行事"七夕"に親しむ	高野史朗、ゲスト講師　サンフォサマドゥ	2016.7.7	出会う	1	○ジョン先生により親しみを感じながら、すすんでかかわろうとします。 ○日本とは違う国の人に、七夕や盆踊りなどについて言葉や体の動きで伝えようとします。 ○日本とブルキナファゾでは文化の違いがあることを知ります。 →外国語人と文化についてやりとりをする･･･【出会う】
	附属幼稚園　5歳児（さくら組、うめ組）	生活	お手玉を教えてもらうことを通して、教えてくださる方に親しみをもったり、繰り返しやってみようとしたりしながら、昔から遊び継がれてきたあそびに触れる。	高野史郎、大嶋杏奥莉、新井麻佑	2016.11.28	出会う	2	日本文化の独自性・文化の多様性(お手玉、遊び唄)に気付く体験。日本の伝統文化に【出会う】
基礎前期（小1～小4） ～異なる言葉や文化～	附属京都小中学校1年い組	体育	単元名：シュートゲーム	岡　葉補子	2017.2.2	つながる	3	スポーツの枠組みを利用した「公正」「協力」「積極性」等の価値・態度の学習。スポーツを通じて他者とよりよく【つながる】
	附属桃山小学校英語ルーム2年生	英語	英語：　How many dogs? 言葉や文化の壁を越え、すすんで関わりあえる人の育成	井田裕司、John Sanfo、竹内優有	2016.6.27	広がる	4	グローバル社会においてさまざまな国の人々とやり取りし、関わり合うことが必要となる。そのために本校の外国語活動は英語を使えるようになることだけでなく、すすんでやりとりし、自国や他国について理解することを目標としている。 →他者とコミュニケーションするため、外国語に親しむ･･･【広がる】
	附属京都小中学校　4年ろ組教室	英語	英語、単元名：いろいろな国を知ろう	水野和弘	2016.7.13	出会う	5	グローバル人材育成で求められる「世界に目を向け、それぞれの国が持つ特徴や違いなどに気づく」といった点と、「自分の伝えたいことを根拠を持って英語でわかりやすく相手に伝える」ことを目指しておられる点が、特に本授業の強みであると考えられる。世界の国々との違いに気付く【出会う】
	附属桃山小学校4年1組教室	英語	英語　単元名　Who am I？　～私はだれでしょう～	竹内優有(JTE) Jason Davidson(ALT) 長野健吉(HRT)	2016.10.19	広がる	6	他者とコミュニケーションするため、外国語に親しむ【広がる】
	附属桃山小学校3年1組教室	社会	社会　単元名　昔のくらし	池田恭浩	2016.10.20	広がる	7	桃山地区の古地図を読み解くという主題は、グローバル社会を生きる核となるアイデンティティの確認・涵養としての地域社会（の歴史）という意味を持つ。淡然とした地域の認識を、古地図の読み解きを介して知的に認識し直すという意味で、【広がる】に位置づく。
基礎後期（小5～小6） ～世界の文化や人々～	附属桃山小学校6年1組教室	国語	単元名　伝えられてきたもの　狂言「柿山伏」	井上美鈴	2016.9.30	出会う	8	・学習が終わったあとに、古典に親しむ姿勢が育っていることや古典の内容と現代の共通点などが気づけるようにしていきたいと考えている。世界を知るためには、その前にまず自国の文化をしっかりと知っておく必要があるだろう。そのきっかけになるような授業をしたい。 →日本文化に【出会う】
	附属桃山小学校5年1組教室	英語	単元名　What do you want to do? ～自分が住んでいる地域のおすすめを伝えよう～	竹内優有(JTE) Jason Davidson(ALT) 諏訪宏志(HRT)	2016.9.28	つながる	9	自分の暮らす地域の魅力について楽しみながら友達に伝えるという、他者と【つながる】活動。
	附属桃山小学校：6年2組教室	英語	英語 単元名：Where is it? テーマ：言葉や文化の壁を越え、すすんで関わりあえる人の育成	竹内　優有　ジェイソン・デヴィッドソン　若松　俊介	2016.7.6	つながる	10	言葉や文化の壁を超えて【つながる】
	附属桃山小学校体育館：6年1組	体育	ソフトバレーボール テーマ：言葉や文化の壁を越え、すすんで関わりあえる人の育成	井上　美鈴	2016.7.6	つながる	11	バレーボールを介して、他者と【つながる】
完熟期（中1～中3） ～グローバルな社会の一員～	附属桃山中学校1年3組教室	英語	英語科：　単元名：季節と月　テーマ：月ごとの行事から、外国と日本との文化的な違いを知る。	津田優子、John Sanfo	2016.6.29	出会う	12	ビンゴゲームなどで生徒の興味関心を引きながらの授業は楽しく入りやすい授業だと思います。また常にペアを組んで質問したり答えたりすることでコミュニケーションの道具としての英語が定着すると思われます。ALTの先生のPPTによる説明を聞き取る練習も異文化に触れるという点でよかったと思います。ALTの先生、異文化と【出会う】 追加です：ビンゴゲームやペアワークでコミュニケーションの道具としての英語が定着する。ALTの先生のお国（ブルキナファソ）の紹介PPTによる説明は異文化に触れる活動になる。この発展として日本（京都）の紹介を自分たちで考えて紹介するという場面が後半あるのだがそれは「ひろがる」「つながる」にはならないか？
	附属桃山中学校学年：1年3組	社会	社会科（地理的分野）世界の生活をふりかえろう（グローバルとローカルの視点から、世界のグローバル化について考え深める）	坂田良久	2016.6.16	つながる	13	「グローバル」と「ローカル」の長所と短所について，グループで話し合う活動が取り入れられていた。→【つながる】
	附属桃山中学校1年4組教室	道徳	道徳：　単元名：自分の価値・友達の価値テーマ：滞在国での体験を通して、「差別」を考える	渡邉惠子	2016.6.29	つながる	14	「あってよい違い」（文化的多様性）と「あってはいけない違い」（差別的な思想）が主題の本授業は、異なる成育歴を持つ帰国子女の生徒が、互いの違いを精査し乗り越えを図るという意味で、「つながる」に位置づく。
	附属桃山中学校2年1組教室	国語	国語科、単元名：各政党のポスターを読み解こう（小学6年生との交流授業）	神崎友子	2016.7.8	出会う	15	授業は、小学校6年生と中学校2年生の異校種交流の形態で実施された。中学生は、小学生を助け、補う立場に置かれる。現実にグローバル的な視点に立ったとき、相手の弱い立場を前提とした行動が取れることは重要な能力といえる。自分とは「異なる」人々との協働学習は、社会参画能力として、協働による問題解決を図る能力の育成に直結する学習といえる。異なる意見と【出会う】
	附属桃山中学校2年1組教室	英語	英語　単元名：「Enjoy Other countries'culture!」	黒川　愛子	2016.9.5	広がる	16	スタンダードな教材を用いつつ、観光にまつわる問題、地域文化（異文化）の尊重という、グローバルなコミュニケーション（異なる文化的背景を持つ者同士のコミュニケーション）において必要とされる視点が養われている点が、本授業を、グローバリゼーションを知的に吟味するという意味での【広がる】に位置づくものとしている。
	附属桃山中学校2年1組教室	社会	社会科（地理的分野）単元名：「世界の人口」テーマ：日本の問題を考えるときに世界から見た場合という視点を持つことが大切という認識を持たせる	秋山雅文	2016.7.11	出会う	17	人口問題を切り口に、ローカルでは人口減少，グローバルには人口爆発といった現象のちがいから，ローカル／グローバルという視点を生徒たちが理解することができた→グローバルな問題と【出会う】 中国で活躍する日本人が中国語で話す様子を動画で見ることにより，グローバルに活躍するロールモデルと出会うことができた。→【出会う】
	附属桃山中学校2年1組教室 3年4組	理科		荒木功		?	18	計器を用いて測定しながら、抵抗を求め、抵抗の規格値と比較し、そこに表れる違いについて、考えられる理由について班で討論するといった内容であり、与えられたことをうのみにせず、自ら疑問を持って取り組み生徒の能動的な学習活動になっており、グローバル人材養成の学習に通じるものと考えます。 追加です：理科という内容でどのような授業をすればグローバルになるのかということですが、国際的な研究グループで仕事をするときからむしろ強く自分の意見を主張できる能力が求められます。日本人は往々にして他人の意見を聞き過ぎるという悪い面？もあるんですが、入手する情報についてしっかり判断できるようになるために学習はグローバルの「つながる」にはなりませんか？
	附属桃山中学校3年2組教室	道徳	道徳様々な労働観（時代・場所の違いから生まれる労働観を考える授業）	有田有志	2016.6.15	広がる	19	「働く」という事象を、「別の時代」「別の場所」という形で多面的に問い直している点をもって、【広がる】に位置づく。
	附属京都小中学校（東エリア）9年A組教室	社会	社会（公民）単元名　罪は何を意味するのか～死刑制度の是非を問う～	西田直記	2016.10.31	広がる	20	○大学のプロジェクト専門委員会で作成したカリキュラム案によれば、中学校段階の「広がる」の学習目標は、「グローバルな課題について考える」である。カリキュラム案において中学校段階の人材育成の目標は、「異なる文化や外国の人々と出会いや関わりを重ね、またグローバルな社会についての知識を基に、グローバルな課題について考え、グローバルな社会の一員として世界とつながる」であるので、それへの対応が可能な授業と言えよう。 →内容がグローバルな課題、方法として、ディベート的に賛否に別れての討論【広がる】
	附属京都小中学校　9年C組教室	国語	国語 単元名：挨拶−原爆の写真に寄せて− テーマ：詩に込められた作品の思いを捉え，人間や社会について自分の考えを深める	國原信太郎	2016.9.2	広がる	21	○教材は第2次大戦中の原爆投下、その被害と今との乖離をテーマとしており、教材そのものが原爆・核兵器を扱ったもので、グローバルな視点から世界の課題を考えるのに絶好の題材であった。 →内容がグルーバルな課題を話しあいで深める【広がる】
発展期（高等学校） ～グローバルな課題の解決～	附属高校　1年2組	現代社会	現代社会 単元名（内容）　グローバルな視点から現代社会を考える―生徒発表	高田敏尚	2016.10.31	つながる	22	グローバル・イシューについてのプレゼンテーションが主題の授業である。生徒のグループが、それぞれにグローバル・イシューについて学ぶだけでなく、それを工夫しながらプレゼンテーションの形式に高めていくという課題が、【つながる】に相応しい。
	附属高校　2年2組	家庭科	ヒューマンライフサイエンス（家庭科）単元名（内容）　共生社会～児童労働をインドのコットン畑から考える	富田滋子	2016.10.31	広がる	23	3時限構成で，児童労働について学ぶ。各時限が「出会う」「広がる」「つながる」に相当。 本時はコットン畑での児童労働の現状や背景について理解を深めた→【広がる】
	附属高等学校	英語	コミュニケーション英語Ⅱ（台湾国立台中女子高級中学の生徒との交流授業：グループ活動を通しての自己紹介、国紹介）	境倫代	2016.4.28	つながる	24	異なる言葉や文化的背景をもった他者と【つながる】
	附属高等学校	理科	理科：テクニカル・サイエンス（台湾国立台中女子高級中学の生徒との交流授業：カード・ゲームを利用したプレゼンテーション活動）	岡本幹	2016.4.28	つながる	25	異なる言葉や文化的背景をもった他者と【つながる】
	附属高等学校	英語	グローバル英語2（ドイツElfriede Steinwand氏をお迎えし，附属高校生と京都の伝統文化等について語り合う国際交流授業）	佐古孝義	2016.5.16	つながる	26	異なる言葉や文化的背景をもった他者と【つながる】
	附属高等学校	国語	古典探求 単元名（内容）　ワッハッハッと笑ってウーンと悩む	札埜和男	2016.11.18	つながる	27	伝統芸能としての落語の技法である「ふり」を生徒が実演することで，とっさに限られた道具を活用する「創造的思考力」や異文化間のコミュニケーションに不可欠なユーモアのセンスを養うことを目指していた。→【つながる】
	附属高等学校3年2組、3年3組	国語	ゲスト講師の講演により、メディア・リテラシーを養う。	札埜和男 遠浦俊彦氏：読売テレビ報道局専門部長（「情報ライブミヤネ屋」担当）	2016.12.7	広がる	28	世界の紛争とその報道について、テレビ制作現場で働くゲスト講師とのやりとりを通じて、批判的思考力を養う。そのことによって、視野や知識が【広がる】
	附属高等学2年2、3、4、5組	国語	ゲスト講師の講演を聞き、平和構築にあたって、メディアの持つ功罪を深く考え、平和を実現するためにはどのようにメディアと接すればよいかを深く考える	札埜 和男 先生，ゲスト講師：西谷文和 氏（国際ジャーナリスト）	2017.1.31	広がる	29	現役の国際ジャーナリストが，現地取材（シリア内戦が中心）のビデオを映写しながら語る戦争の実態とその原因についての意見が，「メディアが形作る「現実」を批判的（クリティカル）に読み取る」という目的に意図的に資している。そのことによって、視野や知識が【広がる】
	附属特別支援学校　高等部3組	生活	外国のアーティストと作品の学習、模写	橋本鈴世、細川潤、山口知慧	2016.12.16	広がる	30	○色々な国のアーティストとその美術作品に興味をもち、美術館の利用など、余暇の 外出先の幅をひろげる。 ○ピカソやゴッホなど、よく知られたアーティストについて知り、その作品を鑑賞 し、クレヨンと絵の具を使って模写（彩色）に取り組む。そのことによって、知識や視野が【広がる】

5　平成 29（2017）年度のカリキュラム開発に向けて

村上登司文

京都教育大学での開発の経緯

【H26 年度】

①H26 年度に各附属学校園にて現状調査 :「グローバル人材育成に関連する教科内容や活動」（H26.7）

②H26 年度末に、各附属学校園からグローバル人材育成に関連する授業実施計画

【H27 年度】

①各附属学校園で、グローバル関連授業を公開（40 以上の公開授業）

H27 年度の各附属学校園での教育実践

幼稚園１、小学校 11、小中学校 10、中学校８，高等学校７、特別支援学校３

各附属学校園でのH27年度の教育実践

- 幼稚園1、小学校11、小中学校10、中学校8，高等学校7、特別支援学校3

教科など	授業数	教科など	授業数
国語	10	道徳	1
社会	6	図画工作	1
音楽	5	理科	1
英語活動	3	技術	1
合同生活	3	保健体育	1
総合学習	2	家庭	1
特別活動	2	有志活動	1
活動	1	メディア・コミュニケーション科	1

3

H28 年度についての依頼事情

平成 27 年度に接続して実践の開発、公開、蓄積

実践数の目安は、

小学校は低学年、中学年、高学年で３つずつ

幼稚園と特別支援学校は全体で３つ

中学校と高校は各学年で３つずつ

推進計画の書式等は、学校や学年の実態に合わせる

カリキュラム枠組の横軸（ステップ）と、縦軸（学習内容や子どもの発達段階）への位置づけを明確にする

グローバル人材育成としての「学習指導案」の作成

「学習指導案」の記載方法の工夫で、学習目標（ねらい）、グローバル人材育成との接点、評価法を明確にする

H28 年度の教育実践数　（H29.3.2 現在）

	幼稚園	桃小	桃中	京都小中	高校	特別支援	計
授業計画数※	未提出	9	9	18	18	3	57
公開授業等実施数	3	8	10	7	13	1	43 [82.4%]
授業指導案数※	1	5	6	5	6	1	18 (41.8%)
FC作成数※	3	8	7	6	6	1	30 (69.7%)
DVD作成数	3	7	10	6	7	-	33 (76.7%)
参観者数(附/大/学)							

注:[]内は計画達成率、()内は作成率、を示す。
※は、それぞれが大学の「グローバル人材プロジェクト」のウェブシェアに掲載数　5

京都教育大学の第 3 期中期計画より

※第 3 期中期計画（H28 年度～H33 年度）

H29 年度計画

【33-1】機能強化に向けた取り組みの一つとして、グローバルな人材を育成するため、附属学校園の公開授業を引き続き行い、発達段階別学習目標（出会う・広がる・つながる）に基づく幼稚園から高等学校までの系統的なカリキュラムの策定を始める。

※　ゴールは H30 年度より前倒しして実現する。各学校から個々のプログラムはできているので、それを一貫させた「系統的」にさせる必要がある。

4「その他の目標」－(2)附属学校

【36-2】学部･研究科と連携して、「『グローバル人材育成プログラム』の開発－幼稚園から大学までの系統的カリキュラムの策定を目指して」に取り組み、幼稚園から高等学校までの校種ごとのカリキュラムの策定を始める。

H29 年度に向けて

附属学校と大学との研究推進・連携の促進

大学と附属との情報の共有

授業計画、授業指導案、FC（授業フィードバック）

H28 年度のＦＣを反映させた公開授業の実施

第 3 期中期計画（前半：H28.29.30）で計 90 の実施

附属学校園において系統的なカリキュラム案を作成

大学と協働で作成

○H29 年度の附属学校園への依頼事項

公開授業の実施（系統的な関連づくり）

学部でのグローカルテーチャー養成と連携

学生･院生の授業参観の案内

○プロジェクトの推進体制

H26 年度「グローバル人材育成プログラム」開発プロジェクト委員会

WG（コミュニケーション、多文化共生、英語）

プロジェクト WG（大学 WG 担当者＋附属学校園担当教員）

H27 年度

WG（コミュニケーション、多文化共生、英語）

プロジェクト WG（大学 WG 担当者＋附属学校園担当教員）

（H28.2 推進会議の規定の策定）

京都教育大学グローバル人材育成プログラム推進会議

H28 年度　附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会

「グローバルカリキュラム開発」の構成員

大学教職員（沖花　谷口　村上　浜田　神代　石川　高松　宇野）

附属学校副校園長　研究主任

H29 年度　附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会

「グローバルカリキュラム開発」の構成員

大学教職員（村上　谷口　浜田　神代　石川　斉藤　樋口　高松　宇野）

附属学校副校園長　研究主任　連絡担当

6　平成 28 年度末の附属学校教員調査の結果から

浜田麻里

1.　本研究の目的

グローバル人材育成について教員はどのような意識を持っているのだろうか。教員の意識を知ることは、今後の学部・大学院における「グローカル教員」の養成にも大きな示唆を与えてくれる。

そこで、本学附属学校教員に対しアンケート調査を実施し、教員はグローバル社会に生きる子どもにどのような力を養うべきだと考えているか、またその教育を実現するために何が必要かを明らかにする。

２．方法

本学で平成 28 年度にグローバル人材育成公開授業の実施に協力してくれた附属教員に対してメールで質問紙を送付し回答を依頼した。質問紙は本文末を参照されたい。

質問紙は授業記録動画の公開許諾と同時にメールで送付された。回答の提出にあたっても、回答者の負担を軽減するためメールによる提出を求めた。筆者とは別の職員のメールアカウントを返送先として指定し、筆者はデータのみを得た。そのため、回答者の匿名性は担保されている。

最終的に 20 名の教員から協力を得ることができた。

３．結果と考察①：グローバル人材に求められる力

「グローバル化した社会に生きる子どもたちにはどのような力が求められると思いますか。」という問に自由記述で回答を求めた。

得られた記述に見られる力をコード化した。力に関する記述は 48 得られ，同じコードを付されたものもあったため，最終的には 26 のコードが得られた。得られたコードは以下の通りである。

●意欲・関心・態度に関するもの

多様性への寛容さ
積極性
粘り強さ
開放性
規範の尊重
好奇心
目的遂行能力
柔軟性
他者尊重

●知識に関するもの
自文化理解
社会に関する知識
広い視野
多面的視野
●資質・能力に関するもの
伝達力・コミュニケーション力
理解力
自立性（自分の考えを持つ）
外国語コミュニケーション能力
協働する力
交渉力
情報リテラシー
違いの認識
人間関係調整能力
批判的思考力
論理的思考力
探究力
●その他
感性

（1）意欲・関心・態度に関するもの

複数の教員が挙げたのが「多様性への寛容さ」と「積極性」であった。多様な人々との協働の場面で，異なる背景を持つ人々に対して寛容であるとともに積極的に関わっていけることが必要であるとされている。「開放性」「好奇心」「柔軟性」「他者尊重」なども同じ方向性を示すものであろう。「粘り強さ」「目的遂行」など，グローバル社会での困難な課題に対して，つねに目的を明確に意識しつつ粘り強く解決を探っていくことも重要であるとされている。

また「規範の尊重」への言及があることは興味深い。様々な利害が対立する中で，国際社会のルールや普遍的な価値である人権等の大切さを理解し，尊重することが求められている。

（2）知識に関するもの

最も多かったのは「自文化理解」であった。また自国の理解の他，変動を続けるグローバル社会に関する知識，とくに幅広く多面的な視野から現象を捉えることが必要とされている。

（３）資質・能力に関するもの

もっとも多くの教員が挙げたのは「伝達力・コミュニケーション力」である。また相手の考えを理解する「理解力」も複数の教員が挙げていた。「伝達力」「理解力」を含む上位の力として「協働する力」「交渉力」「人間関係調整能力」を挙げた教員も多かった。

興味深いのは，「伝達力」を掲げた教員のほとんどが「自分の考えを持ち，それを相手に伝える」のように，自分の考えをもつ「自立性」とペアで伝達力を捉えていることである。またその基盤として求められる「情報リテラシー」「批判的思考力」「論理的思考力」「探究力」なども挙げられていた。

以上を概括すると，プロジェクトに関わる附属学校教員が考える「グローバル人材に求められる力」は，

(1) 多様性に対応できる態度

(2) 自文化とグローバル社会に関する広範な知識

(3) 情報を批判的に捉え，他者とコミュニケーションをとりながら，協働する力

の三点にまとめられると考えられる。

４． 結果と考察②：発達段階別の目標

発達段階に対応した目標を設定するため「現在ご担当の学校種の最高学年では、どのような力がついているとよいと思いますか。」と尋ねた。なお，小中一貫教育を行っている場合でも６−３制の小学校，中学校の枠組みにあわせて回答いただいた。

（１）幼稚園段階の目標

幼稚園段階では異なる言語や文化に対する興味関心，自ら関わろうとする意欲が共通に挙げられた。その他，「他者への共感」「他者との協働の意欲」「課題を見つける」を挙げた教員もいた。

（２）小学校段階の目標

共通に見られたのは「他者を受け入れる」「自分の思いを伝える」である。また「課題への答を見つけ，答を考える」との回答もあった。

幼稚園段階で養った「他者への共感」を基盤として，実際に他者との協働にまで至ること，幼稚園段階では「課題を見つける」に止まるが，小学校段階では「答を考える」ところまでが求められていることが興味深い。

（３）中学校段階の目標

中学校段階の特徴は「他者との共同生活を送る」「批判的に捉える」「複数の学びを統合する」「自分の考えを相手に伝える」「様々な可能性を見いだす」などが挙げられていることである。

小学校段階までは自身の中で課題を設定し答を見つけること，また伝えるのは自分の「思い」であったが，中学校段階では他者との協働に向け，自分の出した結論を相手に伝える

ことが求められている。また，異なる考えを持つ他者と交渉の中で様々な可能性の中から妥協点を探ることまでが期待されている。

また取り組むべき課題も小学校段階よりも高度になり，必ずしも答が明確でない課題にも取り組んでいくこと，そのために様々な場面での学びを自分の力で批判的に捉えながら接合することも要求されるようになっている。

（4）高校段階の目標

これまでの段階の学びを総合し，「柔軟性」を持ちつつ課題を「探求」し，協働のために人間関係を調整し，社会に向けて発信することが目標として想定されていた。

４つの校種の目標に共通していたのは，「他者との関わり」「課題探求」の２つの軸である。この軸を中心に各段階を通して見ると，おおよそ以下のようになった。

	幼稚園	小学校	中学校	高校
他者との関わり	共感	思いを伝える	考えを伝える 妥協点を見いだす	柔軟に調整
課題探求	課題を見つける	課題の答を出す	多様な文脈への拡張	社会への発信

５．　結果と考察③：グローバル人材を育成するために求められるもの

では各教員が考えるグローバル人材を育成するために必要な条件とはどのようなものか。多肢選択で「現在，グローバル人材育成ができない原因」「教師に求められるものは」「授業実施のために必要なものは」の３つの観点から多肢選択で尋ねた。

（1）グローバル人材育成ができない原因

「現在，そのような教育（グローバル人材育成）を行うことを難しくしているのはどのような要因でしょうか。」と尋ね，選択肢の中からいくつでも当てはまるものを選んでもらった。また，最大の要因は何かについても選んでもらった。(n=20)

	人数	最大要因
準備のために十分時間が取れない	9	2
学校全体としての取り組みが必要だが、いまは十分でない。	8	0
予算的なサポートが足りない	6	0
教育目標と現在の教育課程が合っていない	5	2
授業者がそのような教育を行うための十分な教育や研修を受けていない。	5	2
教育方法がわからない	5	1
あまり経験がないので，イメージがしづらい。	4	1
教育目標が明確でない	2	1
適当な教材がない	1	0
そのような教育をしても、子どもや保護者に受け入れられない。	1	0

半分近くの教員は「準備のために十分時間が取れない」を挙げた。これを最大要因とした教員も多かった。また「学校全体としての取組」「予算的サポート」などの後方支援体制の不備を挙げた教員も多い。

（2）教師に求められるもの

「教師としてグローバル化した社会に生きる子どもを育てるためには、何が必要だと思いますか。」として，同様に多肢選択で尋ねた。結果は以下の通りである。

	人数	最大要因
グローバル化の現状等に関する幅広い知識	15	5
高度な授業実践力	14	2
新しい教育理論に関する知識	12	1
子どもを理解する力	11	3
自身が外国や異文化の中で暮らした経験を持つこと	6	0
外国語能力	5	0

ここでは「グローバル化の現状に関する幅広い知識」を選んだ教員が圧倒的に多かった。また「高度な授業実践力」「子どもを理解する力」など，授業実践に普遍的に求められる力を挙げた教員も多かった。自身の異文化体験や外国語能力が必要と考える教員は比較的少ないことが興味深い。

（3）授業実施のために必要なもの

グローバル人材を育成する授業実施の環境整備として何が必要かを同じく多肢選択で尋ねた。

	人数	最大要因
参考にできる先進事例や教材の開発	12	3
グローバル化や社会変化に関する一般的な知識に関する研修の実施	10	2
最新の教育理論を学べる研修の実施	9	1
学校全体としての取組体制	8	4
公開授業や授業研究	7	0

最も多かったのは「先進事例や教材の開発」である。今後附属学校で作成したカリキュラムを他の教育現場に発信することは大きな効果が期待されるのではないかということを期待させる結果である。また「グローバル化や社会変化に関する一般的な知識に関する研修の実施」も半数の教員が選択している。この点で高等教育機関が現場と連携できる可能性を感じさせる。また，（2）と同様，一般的な教育実践にも求められるような「最新の教育理論の研修」も挙げられている。

６．まとめ

グローバル人材育成は今世紀になってとくに現代的な教育課題として強調されるようになってきた。しかし多くの課題への対応が迫られる中，教育現場では十分に対応のための体制が整っていないと考えられている。

しかしながら，あくまで附属学校教員でグローバル人材育成に興味を持つ教員であるという限定付きではあるものの，グローバル人材育成について，教員は校種を超えた段階的な発達のイメージを持ちつつ，実践に取り組んでいる。

グローバル化の進む現代社会では，日々新たな状況が出現しており，そういった状況に関する知識は学校教員にも不可欠であるが，そういった情報を元にこれまで現場で培われ蓄積されてきた「授業実践力」や，新たな理論を学びつつ実践を展開していく「自己研修能力」により，新たな課題に取り組もうとしている教員像が明らかになった。

今後，このような教員の意識で求められるグローバル人材育成が可能かどうかも含め，グローバル人材育成やそれを担うグローカル教員養成を通じて検証を続けていく必要がある。

６－２　調査票

調査２　質問紙　兼　回答紙

附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会

以下は，本学の戦略「現代的ニーズに対応した教員の育成」に関しての質問です。先生方が日頃お感じになっておられることを教えていただきたいと考えています。どうぞ忌憚ないご意見をお聞かせくださいますよう，よろしくお願いいたします。

1.　グローバル化した社会に生きる子どもたちにはどのような力が求められると思いますか。

2.　先生が現在ご担当の学校種の最高学年では、どのような力がついているとよいと思いますか。（小中一貫校の場合は、一般の小学校、中学校に対応する年齢でお考えください）

3.　現在，そのような教育を行うことを難しくしているのはどのような要因でしょうか。当てはまるものにいくつでも〇を付け、そのうちもっとも大きい要因と考えられるものに◎を付けてください。

［　　］教育目標が明確でない
［　　］教育目標と現在の教育課程が合っていない
［　　］教育方法がわからない
［　　］準備のために十分時間が取れない
［　　］適当な教材がない
［　　］予算的なサポートが足りない
［　　］授業者がそのような教育を行うための十分な教育や研修を受けていない。
［　　］そのような教育をしても、子どもや保護者に受け入れられない。
［　　］学校全体としての取り組みが必要だが、いまは十分でない。
［　　］あまり経験がないので，イメージがしづらい。
［　　］その他（具体的にお書きください）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4.　大学教員による授業コメントは、そのような教育を行うための授業改善に役に立ちましたか。

［　　］役に立った

［　　］やや役に立った
［　　］あまり役に立たなかった
［　　］役に立たなかった

5.　教師としてグローバル化した社会に生きる子どもを育てるためには、何が必要だと思いますか。当てはまるものにいくつでも〇を付けてください。また、もっともよく当てはまるものに◎を付けてください。

［　　］高度な授業実践力
［　　］新しい教育理論に関する知識
［　　］子どもを理解する力
［　　］グローバル化の現状等に関する幅広い知識
［　　］自身が外国や異文化の中で暮らした経験を持つこと
［　　］外国語能力

6.　グローバル化した社会に生きる子どもを育てる授業を実施するための環境整備としては何が必要だと思いますか。当てはまるものにいくつでも〇を付けてください。また、もっともよく当てはまるものに◎を付けてください。

［　　］学校全体としての取組体制
［　　］参考に出来る先進事例や教材の開発
［　　］最新の教育理論を学べる研修の実施
［　　］グローバル化や社会変化に関する一般的な知識に関する研修の実施
［　　］公開授業や授業研究
［　　］その他（具体的にお書きください）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇現在ご担当の校種（当てはまるものに〇を付けてください）
幼稚園・小学校（小中一貫校の該当学年を含む）・中学校（小中一貫校の該当学年を含む）・高校
特別支援

〇ご担当の教科
（　　）　・　教科はありません

ありがとうございました。ご記名は結構です。

Ⅱ　教育実践編（平成 28 年度の附属学校園での公開授業）

平成 28（2016）年度の授業案とフィードバック・コメント

平成 28 年度の公開授業について 36 件の授業をピックアップし、子どもの発達段階別に公開授業一覧の HP を作成した。HP（学内限定）では、出会う、広がる、つながる、の各ステップを示し、各公開授業ごとに「授業案」と「フィードバック・コメント」へリンクさせた。グローバル・スタディーズの授業開発に向けて、先行事例の研究にご活用を願いたい。

平成28（2016）年度の授業開発一覧

発達段階・テーマ	番号	ステップ	教科など	授業案	フィードバックコメント	科目・授業内容など	公開した学校園・場所	授業者	実施日
前基礎（幼稚園年少組～年長組） ～異なるものとの出会い～	1	出会う	活動	1	1	保育について：日本の伝統行事"七夕"に親しむ	附属幼稚園　5歳児さくら組保育室	高野史朗、ゲスト講師　サンフォ　モサマドゥ	2016.7.7
	2	出会う	生活	2	2	お手玉を教えてもらうことを通して、教えてくださる方に親しみをもったり、繰り返しやってみようとしたりしながら、音から遊び種がれてきたあそびに触れる。	附属幼稚園　5歳児（さくら組、うめ組）	高野史朗、大崎吉具莉、新井麻佑	2016.11.28
基礎前期（小1～小4） ～異なる言葉や文化～	3	つながる	体育	3	3	単元名：シュートゲーム	附属京都小中学校1年い組	岡　紫緒子	2017.2.2
	4	広がる	英語	-	4	英語：　How many dogs? 言葉や文化の壁を超え、すすんで関わり合える人の育成	附属桃山小学校　英語ルーム2年生	井田裕司、John　Sanfo、竹内優有	2016.5.27
	5	出会う	英語	5	5	英語、単元名：いろいろな国を知ろう	附属京都小中学校　4年ろ組教室	水野和弘	2016.7.13
	6	広がる	英語	6	6	英語　単元名　Who am I？　～私はだれでしょう～	附属桃山小学校 4年1組教室	竹内優有(JTE)　Jason Davidson(ALT)　長野陽吉(HRT)	2016.10.19
	7	広がる	社会	-	7	社会　単元名　昔のくらし	附属桃山小学校 3年1組教室	池田敏浩	2016.10.20
基礎後期（小5～小6） ～世界の文化や人々～	8	出会う	国語	-	8	単元名　伝えられてきたもの　経験「楠山伐」	附属桃山小学校 5年1組教室	井上美鈴	2016.9.30
	9	つながる	英語	9	9	単元名　What do you want to do?　～自分がほんでいる地域のおすすめを伝えよう～	附属桃山小学校　5年1組教室	竹内優有(JTE)　Jason Davidson(ALT) 藤詠宏志(HRT)	2016.9.28
	10	つながる	英語	10	-	英語 単元名：Where is it? テーマ：言葉や文化の壁を超え、すすんで関わり合える人の育成	附属桃山小学校： 5年2組教室	竹内優有　ジェイソン・デヴィッドソン　若松俊介	2016.7.6
	11	つながる	体育	11	11	ソフトバレーボール テーマ：言葉や文化の壁を超え、すすんで関わり合える人の育成	附属桃山小学校体育館：5年1組	井上美鈴	2016.7.6
充実期（中1～中3） ～グローバルな社会の一員～	12	出会う	英語	12	12	英語科：　単元名：季節と月　テーマ：月ごとの行事から、外国と日本との文化的な違いを知る。	附属桃山小中学校 1年3組教室	津田優子、John Sanfo	2016.5.29
	13	つながる	社会	-	-	社会科（地理的分野）世界の生活をふりかえろう（グローバルとローカルの視点から、世界のグローバル化について考え深める）	附属桃山小中学校学年：1年3組	坂田良久	2016.5.16
	14	つながる	道徳	14	14	道徳：　単元名：自分の価値・友達の価値テーマ：滞在国での体験を通して、「差別」を考える	附属桃山小中学校 1年4組教室	渡邊恵子	2016.5.29?
	15	出会う	国語	15	15	国語科、単元名：各政党のポスターを読み解こう（小学6年生との交流授業）	附属桃山小中学校 2年1組教室	神崎友子	2016.7.8
	16	広がる	英語	16	16	英語　単元名：「Enjoy Other countries' culture!」	附属桃山小中学校 2年1組教室	黒川愛子	2016.9.5
	17	出会う	社会	-	17	社会科（地理的分野）単元名：「世界の人口」テーマ：日本の問題を考えるときに世界から見た場合という視点を持つことが大切という認識を持たせる。	附属桃山小中学校 2年1組教室	秋山雅文	2016.7.11
	18		理科	18	18	-	附属桃山小中学校　2年1組教室、3年4組	荒木功	
	19	広がる	道徳	19	19	道徳様々な労働観（時代・場所の違いから生まれる労働観を考える授業）	附属桃山小中学校 3年2組教室	有田有志	2016.5.15
	20	広がる	社会	20	20	社会（公民）単元名　罪は何を意味するのか～死刑制度の是非を問う～	附属京都小中学校（東エリア）　9年A組教室	西田直記	2016.10.31
	21	広がる	国語	21	21	国語 単元名：挨拶―原爆の写真に寄せて―テーマ：詩に込められた作品の思いを捉え、人間や社会について自分の考えを深める	附属京都小中学校 9年C組教室	國原信太郎	2016.9.2
発展期（高等学校） ～グローバルな課題の解決～	22	つながる	現代社会	22	22	現代社会 単元名（内容）　グローバルな視点から現代社会を考える～生徒発表	附属高校 1年2組	高田敏弘	2016.10.31
	23	広がる	家庭科	-	23	ヒューマンライフサイエンス（家庭科）単元名（内容）　共生社会～児童労働をインドのコットン畑から考える	附属高校 2年2組	富田道子	2016.10.31
	24	つながる	英語	-	-	コミュニケーション英語Ⅱ（台湾国立台中女子高級中学の生徒との交流授業：グループ活動を通しての自己紹介、国紹介）	附属高等学校	境倫代	2016.4.28
	25	つながる	理科	-	-	理科：テクニカル・サイエンス（台湾国立台中女子高級中学の生徒との交流授業：カード・ゲームを利用したプレゼンテーション活動）?	附属高等学校	岡本幹	2016.4.28
	26	つながる	英語	-	-	グローバル英語2（ドイツEffriede Steinwand氏をお迎えし、附属高校生と京都の伝統文化等について語り合う国際交流授業）	附属高等学校	佐古孝義	2016.5.16
	27	つながる	国語	27	-	古典探求 単元名（内容）　ワッハッハッと笑ってウーンと悩む	附属高等学校	札埜和男	2016.11.18
	28	広がる	国語	28	28	ゲスト講師の講演により メディア・リテラシーを養う。	附属高等学校 3年2組、3年3組	札埜和男、道浦俊彦氏：読売テレビ報道局専門部長（「情報ライブミヤネ屋」担当）	2016.12.7
	29	広がる	国語	29	29	ゲスト講師の講演を聞き、平和構築にあたって、メディアの持つ功罪を深く考え、平和を実現するためにはどのようにメディアと接すればよいかを深く考える	附属高等学 2年2、3、4、5組	札埜和男、ゲスト講師：西谷文和 氏（国際ジャーナリスト）	2017.1.31
特別支援学校	30	広がる	生活	30	30	外国のアーティストと作品の学習、模写	附属特別支援学校 高等部3組	橋本鈴世、細川朋、山口和慧	2016.12.16

発達段階・テーマ	番号	教科など	授業案	フィードバックコメント	科目・授業内容など	公開した学校園・場所	授業者	実施日
幼稚園	31	活動	31	31	人間賛歌・舞楽・原爆・音楽	附属幼稚園　5歳児さくら組、うめ組保育室	高野史朗、大崎吉具莉、新井麻佑	2017.1.26
小学校	32	音楽	32	32	香港：三味線の演奏を通して日本文化に触れ、日本文化への考えを深める。	附属桃山小学校、第5学年1組	林美恵子（OT）　林美香子（OT）　四井繁　堀哲朗子	2017.2.2
	33	国語	33	33	ともだちに、きいてみよう：大事なことを聞とさないようにして聞き聞き、整理して聞したり感想を伝えたりすることができる。	附属京都小中学校、1年は組	小西かおり	2017.1.25
	34	国語	34	34	部単語のふるさとを守る	附属京都小中学校　5年C組	藤田哲之	2017.2.16
中学校	35	社会	35	35	日本の資源・エネルギー問題「日本は原子力発電を主要電源の一つとすることに賛成か反対か」	附属桃山小中学校、3年3組	横谷成司	2017.3.7
高等学校	36	国語	36	36	メディア・リテラシーを学ぶ授業	附属高等学校　2年5組教室	札埜和男、ゲスト講師：柴本　浩岳	2017.2.2

Ⅲ　資料編

資料１：附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会細則

平成２８年　　月　　日　制　定

（目　的）

第１条　国立大学法人京都教育大学研究推進室会議規程第５条に基づき，附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発のため，附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会（以下「専門委員会」という。）を置く。

（組　織）

第２条　専門委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

一　副学長（研究推進担当）

二　附属学校部長

三　教授会構成員のうちから学長が指名する者　若干名

四　研究推進室から推薦する者　１名

五　その他学長が指名する者　若干名

（任　期）

第３条　前条第三号から第五号の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，学長の任期の末日を超えることができない。

２　欠員により補充した委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（所掌事項）

第４条　専門委員会は，次に掲げる事項を所掌する。

一　附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラムの立案に関すること。

二　附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラムの実施に関すること。

三　その他附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラムに関すること。

（委員長）

第５条　専門委員会に委員長を置き，第２条第一号の委員をもってこれに充てる。

２　委員長は，専門委員会を招集し，その議長となる。

（副委員長）

第６条　専門委員会に副委員長を置き，第２条第三号及び第五号の委員のうちから，委員の互選により選出する。

２　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときはその職務を代行する。

附　則

この細則は，平成２８年　月　日から施行し，平成２８年４月１日より適用する。

資料２：指導案、フィードバック・コメントの Proself へのアップ状況（平成 28 年度）

	資料	Proselfへのアップ状況	
「グローバル人材育成プログラム」授業公開関係			
1	コメント 京小中 水野 20160713	指導案 京小中 水野 20160713	DVD
2	コメント 京小中 國原 20160902	指導案 京小中 國原 20160902	DVD
3	コメント 京小中 西田 20161031	指導案 京小中 西田 20161031	DVD
4	コメント 京小中 小西 20170125	指導案 京小中 小西 20170125	DVD
5	コメント 京小中 岡　20170202	指導案 京小中 岡　20170202	DVD
6	京小中 今西 20170206		
7	京小中 藤田 20170216		DVD
8	コメント 桃小 井田 20160627		DVD
9	コメント 桃小 井上 20160706	指導案 桃小 井上 20160706	DVD
10	コメント 桃小 若松 20160706	指導案 桃小 竹内 20160706	
11	コメント 桃小 竹内 20160928	指導案 桃小 竹内 20160928	DVD
12	コメント 桃小 井上 20160930		DVD
13	コメント 桃小 竹内 26161019	指導案 桃小 竹内 20161019	DVD
14	コメント 桃小 池田 20161020		DVD
15	コメント 桃小 越知 20170202	指導案 桃小 越知 20170202	
16	コメント 桃中 有田 20160615	指導案 桃中 有田 20160615	DVD
17	（桃中 坂田 20160616）		DVD
18	コメント 桃中 津田 26160629	指導案 桃中 津田 20160629	DVD
19	コメント 桃中 渡邉 20160629	指導案 桃中 渡邉 20160629	DVD
20	コメント 桃中 神崎 20160708	指導案 桃中 神崎 20160708	DVD
21	コメント 桃中 秋山 20160711		DVD
22	コメント 桃中 荒木 20160905	指導案 桃中 荒木 20160905	DVD
23	コメント 桃中 黒川 20160905	指導案 桃中 黒川 20160905	DVD
24	コメント 幼稚園 高野 20160707	指導案 幼稚園 高野 20160707	DVD
25	コメント 幼稚園 高野 20161128	指導案 幼稚園 高野 20161128	DVD
26	コメント 幼稚園 高野 20170126	指導案 幼稚園 高野 20170126	DVD
27	コメント 高校 高田 20161031	指導案 高校 高田 20161031	DVD
28	コメント 高校 富田 20161030		DVD
29	コメント 高校 札埜 20161118	指導案 高校 札埜 20161118	DVD
30	コメント 高校 札埜 20161125	指導案 高校 札埜 20161125	DVD
31	コメント 高校 札埜 20161207	指導案 高校 札埜 20161207	DVD
32	コメント 高校 札埜 20170131	指導案 高校 札埜 20170131	
33		指導案 高校 札埜 20170201/02	DVD
34		指導案 高校 札埜 20160202	DVD
35	コメント 特支 橋本 20161216	指導案 特支 橋本 20161216	DVD

授業以外
DVD 桃小 台湾交流 20160706
DVD 桃中 帰国学級合同スピーチ発表会 20160930
DVD 桃中 帰国学級卒業生のお話を聞く会 20161206

	幼稚園	桃小	桃中	京都小中	高校	特支	計
授業数	3	8	10	7	13	1	42
指導案	3	5	6	5	6	1	26
FC	3	8	7	5	6	1	30
DVD	3	7	10	6	7	1	34

資料３：附属学校園宛の参加教員募集依頼の文書（2017.5.10 発信）

「グローバル・スタディーズ」の授業開発への参加教員の募集

グローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会

グローバル･スタディーズのカリキュラムを一緒に開発しませんか。
ー授業開発（島づくり）【島とは主題別授業・単元群】への参加教員を募集しますー

○本学の中期計画での位置づけ

【戦略１－３】
戦略名：現代的教育課題に対応できる質の高い能力を持った教員の養成
ーグローバル化に対応した学校教育の変革を目指してー
取組名：グローバル人材育成のためのカリキュラム開発と教員養成
計画期間：平成 28 年度～平成 33 年度（6 年）

○提案の概要と開発手順

幼稚園から大学までの系統的カリキュラム策定をめざす「グローバル人材育成カリキュラム」では、これまで、附属学校園と大学の連携の中で、グローバル人材育成を念頭においた授業開発が進められてきた。今年度は、平成 28 年度までの成果を踏まえつつ、さらなる授業開発の加速、および、教科横断的な独自領域「グローバル・スタディーズ」のカリキュラムについて、その全体像の明確化を進めていきたいと考えている。

「グローバル・スタディーズ」は、各学校段階・学年において、とくに「グローバルな」要素をもつ授業（現行の教科・領域の枠内にある）を独自の視点で「括りだして」構成される領域である。またこの領域を構成する授業群は、3 つの主題別授業・単元群（通称「島」）に分けることができる（図 1、表 1 参照）。

これを開発のプロセスにしたがって整理すると以下のような開発手順となる。

①主題系列のもとに、学校種横断的に、関連教科の研究者・教員の授業開発グループ（通称「島」づくりグループ）を組織する。

②グループごとに、主題にもとづいて授業を開発する。

➢平成 28 年度までの授業開発の蓄積に基づいて、すでに開発された授業を全体のなかで位置付けて吟味するとともに、新規の開発を追求する。これまでに開発した授業を「グローバル・スタディーズ」のカリキュラムの中に再度位置付け直して実践を行う。

➢学校種ないし発達段階別の差異化は、昨年度以来の「出会う」「広がる」「つながる」のステップによって、開発された授業を整理する。

③開発された授業群の評価を行いつつ、全体を「グローバル・スタディーズ」として調整・整理する。

図１　グローバル・スタディーズの全体イメージ

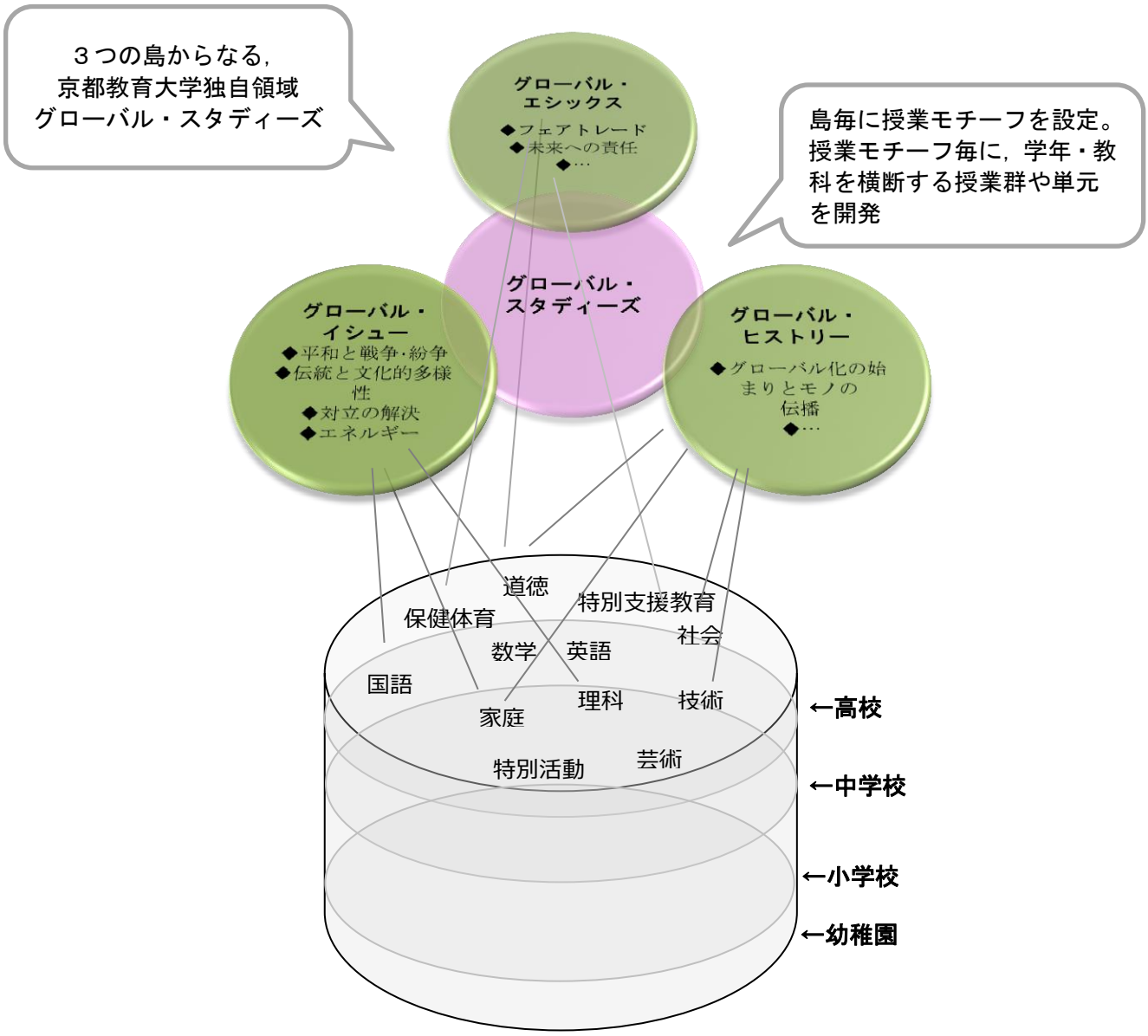


表１　グローバル・スタディーズにおける島の説明

島（主題別授業・単元群）	島の説明
(1) グローバル・ヒストリー	グローバリゼーションという現象を、歴史的時間軸（通時性）のなかで多角的に理解する力を養う授業の系列
(2) グローバル・イシュー	グローバリゼーションという現象を、現在時制（共時性）で理解する力を養う授業の系列
(3) グローバル・エシックス	グローバリゼーションという現象の深い理解を踏まえて、そこで生起する諸問題を乗り越えるための価値を探求する授業の系列

＊次期学習指導要領のコンセプトに沿って表現すれば、このように構築された領域の「グローバル・スタディーズ」では、この領域の特質に応じた見方・考え方を用いて「出会う」「つながる」「ひろがる」と類型化されるような学習を行い、発達段階別目標に示された資質能力を養うことがめざされる。

****

（１）グループ名：グローバル・ヒストリー（グローバル歴史）

１．コンセプト

現代のグローバル化社会の特徴は、人やモノ、情報が国境を越えて行き交うところにある。それにともなって日本でも、様々な出自の人やモノに触れ、交流する機会が増えている。こうした変化を、長期的かつ広域的な視野から具体的に理解し、対応できる人材を育成するためには、「国」を単位とする歴史認識や知識偏重の歴史教育を補うアプローチが必要とされている。そこでグローバル・ヒストリーでは、国という枠組みを超えた人やモノの交流史をテーマに、家庭科、理科、技術科等との連携を通じて、「さわれる歴史」を企図する。その特徴は以下のようになる。

1. 既存の歴史教育が主に数十年単位の政治動向に着目するのに対し、グローバル・ヒストリーでは数世紀以上にわたる長期的な過程に目を向ける。
2. 日本や世界各国の内部の動向よりも、ユーラシア大陸、インド洋世界、地中海世界など、陸域、海域世界全体の構造的な特徴や変化に目を向ける。
3. 人やモノの移動を通じて諸地域が相互にどのような連関した動きを示したか、諸地域間の関係や相互の影響に目を向ける。
4. 以上の問題について、動植物・食料・道具の伝播など、児童生徒にとって身近で理解しやすいテーマ、できれば文字通り「触れる」ことのできるテーマから始め、さらに宗教や移民、搾取や環境変動といった現代に続く難問への歴史的アプローチを図る。
5. こうしたアプローチを実現するため、社会科、家庭科、理科、技術科、道徳科などの連携を図り、児童生徒が長期的・広域的な歴史過程や各地域の相互連関を意識・理解できるようになることを目指す。

具体的な授業のモチーフおよび各教科連携のイメージは、例えば次の通りである。

２．授業モチーフ

①グローバル化の始まりとモノの伝播

歴史的に見た場合、グローバル化自体は最近になって始まったことではない。既に 15 世紀後半以降、いわゆる大航海時代から、人やモノの移動と交流は徐々に地球規模で営まれるようになった。ではグローバル化の初期には、どのような交流や交換がなされたのか。そもそもなぜ交流や交換が始まったのか。私たちの周りには、それを考えるための材料が

たくさんある。香辛料や砂糖、コーヒーやお茶、絹製品や綿製品、これらはいずれも現代人にとっては当たり前のモノだが、歴史的には、グローバル化の動因とみなしうるほど渇望されたモノである。香辛料がない頃の料理を実際に食べてみたり、綿織物が一般化する以前の、ざらざらの服に実際に「触れて」みることで（家庭科）、グローバル化の起点について肌で感じ、考える機会を作りたい。また、星を使った位置測定の知識（理科）や、蒸気機関などの技術（技術科）は、グローバル化がどのように加速していったのかを具体的に理解するための手がかりになりうる。教えることを増やすよりは、家庭科や理科、技術科等で既に教えていることを互いに関連づけることによって、グローバル化という事象に対する児童生徒の感度を高め、理解を深めさせていく方法を模索したい。

****

（２）グループ名：グローバル・イシュー（グローバル課題）

１．コンセプト

現代のグローバル社会には、環境、人口、貧困、開発、紛争など、数多くの課題が存在する。課題は相互に依存したり対立したりしていて、複雑に絡み合っている。また、その解決のためには異なる背景をもつ人々が言葉の壁を越えて協働する必要がある。

領域「グローバル・イシュー」では、こういった複雑に絡み合った課題を具体的に取り上げ、グローバルな視点から読み解いたり、多面的・多角的に捉えたりしながら、よりよい世界のあり方を構想し、社会参画につなげるなど、グローバルな社会に求められる資質・能力を養う。

２．授業モチーフ

①平和と戦争・紛争

国語科には戦争・紛争の悲惨さや平和の大切さを訴える作品を扱う単元が学年横断的に存在する。それらの単元の学習と社会科（地理歴史科、公民科）における歴史や国際協調に関する学習を有機的に関連付けた学習を設計する。戦争の背景についての多元的理解、文学作品を通した平和への思いとそれを実現させるための具体的な構想を連関させながら、平和構築について、発達段階を踏まえて話し合ったり発表したりする。

②伝統と文化的多様性

自らと異なる文化を体験的に知る、日本や世界の伝統文化を音楽・芸術、図工・美術・芸術、生活・技術・家庭科等の学習を通して学ぶ、などを行う。自分が住む地域だけでなく、他地域、他国の多様な文化についてもあわせて学ぶことで、多様な文化に対する敬意や寛容さを、幼稚園から始め、発達段階を踏まえながら段階的に養っていく。

③対立の解決

対立の解決のための具体的な方策について、幼稚園段階における友達との間の身近な問題の解決に始まり、発達段階を踏まえて段階的に養う。教科としては、国語、外国語、特

別活動等で扱う。

④エネルギー

エネルギー問題は国連 SDGs（持続可能な開発のための目標）においてもその解決が目標の一つに取り上げられている。またいまだに福島原子力発電所の問題は解決に至っていない。社会科、理科、技術科等の学習を有機的に連関させ、エネルギー問題について科学的な知識と社会的な見方を交差して捉え、エネルギー問題の解決には国際協力が不可欠であることを前提としながら、自分なりの解決策を構想し、発表する。

****

（３）グループ名：グローバル・エシックス（グローバル倫理）

１．コンセプト

ヒト・モノ・カネ・情報が地球規模でつながる現代グローバル社会においては、必然的に人間同士のコンフリクトも生じてくる。このような人びとと文化の交わりの新しい段階において必要な道徳や倫理のあり方を、児童生徒ともに探求する授業の開発が必要である。「考え、議論する道徳」は、小学校・中学校における新しい「道徳科」の基本的なコンセプトであるが、本グループではこれを「グローバルに考え、議論する道徳」としてバージョンアップさせることを狙いとする。また、小中での新しいモラル教育を、いかにして高校段階における主権者教育などの新しい動向と有効に接続させるかを考えたい。

２．授業モチーフ

①フェアトレード論

わたしたちの生活を支えているさまざまな商品は、グローバルなネットワークのなかでつくられる協働の産物といえる。しかしそんなグローバルな商品生産は、経済的な弱者からの搾取という負の側面をしばしば持っている。フェアトレードとは、発展途上国の作物や製品を適正な価格で取引することによって、生産者の生活向上を促す仕組みといえるが、そのような仕組みについて知り、考え、議論することは、グローバル社会を生きる子どもたちに相応しい道徳性や倫理の育成に資すると考えられる。

具体的には、例えばカカオやコーヒー豆、茶やコットンなど子どもたちの身近な商品を主題に、道徳科、社会科、家庭科などの教科の連携を図り、「商品生産のグローバルな理解」＋「「フェアネス」という道徳的価値の理解」（内容項目 c「公正、公平、社会正義」）という複合的な学習目標を追求していきたい。

②未来への責任：「核のごみ」を考える

生活を営む限り、かならずついてまわる普遍的な問題の一つに、生活からでる「ごみ」をどのように処理するか、というものがある。そんなごみ問題には大小様々なものがあるだろうが、なかでも例えば、いわゆる「核のゴミ」をどのように処理するかという問題は、その策を誤れば人類や地球環境に取り返しのつかない悪影響を与える可能性があるという意味で、極めて深刻かつ危急の問題といえるだろう。

そしてこれは、科学技術の問題であると同時に、その恩恵に浴しながら生きるわたちたちの、未来への責任という倫理的な問題でもある。社会科や理科の学習を通して、この問題についての認識を深めつつ、グローバル社会を生きる人としての、責任（内容項目 A「自主、自律、自由と責任」）のある選択を模索するような授業を構想したい。

＊その他、道徳科を中心に、社会科、理科、技術科、家庭科、保健体育にまたがる授業開発を構想中。

■「島づくり（授業開発）」参加教員の課題

〇募集説明文にある島（主題別授業・単元群）のモチーフに対応した授業実践を開発する。

〇平成 29 年度内に最低 1 回の公開授業を行う。公開授業に於いては指導案を作成する。

〇島づくり（授業開発）（3 つ）のいずれかで主にメールを通じて情報を交換し、必要に応じて研究会を開くことがある。

■平成 28 年度のカリキュラム開発の実績

表３：H28 年度実績　附属学校園での公開授業など　（H29.3.2 まで）

	幼稚園	桃小	桃中	京都小中	高校	特別支援	計
授業計画数	未	9	9	18	18	3	57
公開授業等実施数	3	8	10	7	13	1	42［73.6%］
授業指導案数（収集済み）	3	5	6	8	6	1	27（64.2%）
FC作成数	3	8	7	5	6	1	30（71.4%）
DVD作成数	3	7	10	6	7	1	34（80.9%）

注：［ ］内は計画達成率、（ ）内は作成率を示す。

■平成 29 年度の予算措置

本学の学内状況として、グローバル人材育成カリキュラムの作成が急がれているため、附属学校園への経費配分は、「島づくり」への参加・協力と授業数に応じて配当を行う予定である。

お わ り に

平成29年4月に沖花先生より、カリキュラム開発専門委員会を引き継いで4ヶ月が経ち、このたび平成28年度の報告書をまとめることができた。

報告書は、Ⅰの理論編とⅡの実践編で構成されている。理論編ではまず、たたき台となるカリキュラム素案について提示し、つぎにカリキュラム作成の基本的な考え方を示した。そして平成28年度の開発授業の一覧を示し、子どもの発達段階と学習過程のステップとの関連を考察した。最後に、28年度末に公開授業の授業者に対して実施したアンケートの結果を示し、グローバル人材育成の在り方と課題についてまとめた。

Ⅱの実践編では、平成28年度の公開授業について36件の授業をピックアップし、子どもの発達段階別に公開授業一覧のHPを作成した。HPでは、出会う、広がる、つながる、の各ステップを示し、各公開授業ごとに「授業案」と「フィードバック・コメント」へリンクさせた。グローバル・スタディーズの授業開発に向けて、学内において先行事例の研究にご活用を願いたい。

平成28年度のカリキュラム開発では、平成27年度の反省に立ち、附属学校園での公開授業をやりっ放しにしない方策を試行した。新たな試みは、収録した公開授業をDVDに記録し授業者に配布すると同時に、公開授業についての大学教員によるフィードバック・コメント（人材育成としての強みを評価し、発展形についてアドバイスを記入）を作成し、附属学校園に研究成果を還元した。

平成28年度において、国際交流活動を含めて、附属学校園で43件の授業・活動を公開することができた。平成28年度のカリキュラム案作成では、学習過程を「（出会う→広がる→つながる）×重ねる」の各ステップを想定して、カリキュラム作成の柱とした。28年度末の研究報告においては、授業観察とフィードバック・コメントの分析により、概ね学習過程のステップを確認することができた。

平成28年度末に、公開授業の実施教員にアンケート調査を行い、結果を報告書に収録している。調査によれば、グローバル人材育成が困難な点として、準備のための時間が取れない、学校全体としての取組が不充分との意見があげられた。また、授業実施に必要なものとして、参考にできる先進事例や教材の開発もあげられた。本報告書は、学内ではウェブでも提供し、本学教職員がカリキュラム開発の成果を共有することを目指している。

平成28年度のグローバル人材育成の授業開発を振り返ると、附属学校園のご協力により、カリキュラム開発が成り立っていることがわかる。附属学校園に対して、昨年度までのご協力に感謝すると同時に、本年度のグローバル･ステディーズのカリキュラム開発についてもご協力をお願いしたい。

平成29年7月

附属学校園におけるグローバル人材育成カリキュラム開発専門委員会委員長

村上登司文